

■地域文化研究専攻教員の活動 (2023年1月～12月)

*所属教員名の五十音順に、各人の研究活動を下記の項目にしたがって記載した。

*該当業績のない項目は省略している。

*前年記載漏れの業績なども含む。

A. 著書, B. 分担執筆, C. レフェリー付き学術論文, D. 一般学術論文, E. 翻訳, F. その他の業績, G. 国際学会での活動, H. 国内学会での活動, I. その他の研究活動, J. 受賞

秋葉淳 (AKIBA Jun)

B. 分担執筆

- 秋葉淳. オスマン帝国の近代. 永田雄三 (編). 『トルコ史』. p. 298. pp. 155-226. 山川出版社. 2023.
- 秋葉淳. イスラーム社会における女子教育. 法廷とジェンダー. 山口みどり, 弓削尚子, 後藤絵美, 長志珠絵, 石川照子 (編著). 『論点・ジェンダー史学』. p. 320. pp. 16-17, 36-37. ミネルヴァ書房. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- Dörtok Abacı, Zeynep, Jun Akiba, Metin Coşgel, and Boğaç Ergene. Judiciary and Wealth in the Ottoman Empire, 1689-1843. *Journal of the Economic and Social History of the Orient*. **66.1-2**. pp. 43-84. 2023. DOI: <https://doi.org/10.1163/15685209-12341590>.
- Akiba, Jun. Farming Out Judicial Offices in the Ottoman Empire, c. 1750-1839. *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*. First view. pp. 1-21. 2023. DOI:10.1017/S0041977X23000940.

G. 国際学会での活動

- Pacific Rim Ottomanists' Conference. 東京大学東洋文化研究所. 2023.3.22-23. 一般発表. Visiting the Courtroom through Back Door: A New Look at the Ottoman Sharia Courts. 英語.
- Marmara Tarih Konuşmaları 2023. Marmara Üniversitesi (Online). 2023.4.25. 招待講演. Osmanlı Tarihçiliğine Farklı Bakışlar-IV. トルコ語. <https://www.youtube.com/watch?v=lgddLOWViVE&t=3s>.
- Transnational Research in a Multipolar World: International Conference of the Max Weber Foundation. 上智大学. 2023.5.8-9. 招待発表. Ottoman Studies in Japan: Current State and Prospects. 英語.
- Turkologentag 2023 Vienna: The Fourth European Convention on Turkic, Ottoman and Turkish Studies. Universität Wien. 2023.9.21-23. 一般発表. Litigious People in Ottoman Society: A Study on Registers of Court Revenues. 英語.
- Turkologentag 2023 Vienna: The Fourth European Convention on Turkic, Ottoman and Turkish Studies. Universität Wien. 2023.9.21-23. パネル組織・司会. Social Status and Self-image of Old and New Social Groups in the Late Ottoman Empire. 英語.

H. 国内学会での活動

- 日本中東学会第 39 回年次大会. 筑波大学. 2023.5.13–14. 一般発表. オスマン帝国シャリーア法廷の役割の再検討——1840 年代の法廷収入簿より. 日本語.
- NPO 法人日本トルコ交流協会第 25 回講演会. ユヌス・エムレ インスティテュート東京. 2023.6.18. 招待講演. オスマン帝国社会に生きた女性たち. 日本語.

網野徹哉 (AMINO Tetsuya)

G. 国際学会での活動

- El mundo hispánico moderno y su universo documental, siglos XVI-XIX. CONCITET/ UNSAM. Buenos Aires (Argentina). 2023.3.10. 招待講演 (オンライン). Las causas eclesíásticas de “capítulos” en el siglo XVII: su origen y desarrollo. スペイン語.

有田伸 (ARITA Shin)

A. 著書

- 遠藤薫, 山田真茂留, 有田伸, 筒井淳也 (編). 『災禍の時代の社会学——コロナ・パンデミックと民主主義』. p. 306. 東京大学出版会. 2023.

B. 分担執筆

- Arita, S. How can we prepare for something we don't want to think about? Disaster readiness and negative capability. Babb, J., Iida, T. (eds.). *Dealing with Crisis: The Japanese Experience and Beyond*. p. 211. pp.10–26. Edward Elgar Publishing. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- Arita, S., Nagayoshi, K., Taki, H., Kanbayashi, H., Takenoshita, H., Yoshida T. Legitimation of earnings inequality between regular and non-regular workers: A comparison of Japan, South Korea, and the United States. *International Journal of Comparative Sociology*. **64.6**. pp. 658–680. 2023.

F. その他の業績

- 有田伸. 書評. 西村純, 池田心豪, 田上皓大. 『雇用流動化と日本経済——ホワイトカラーの採用と転職』. 『日本労働研究雑誌』. **761**. pp. 84–86. 2023.

G. 国際学会での活動

- XX ISA World Congress of Sociology. International Sociological Association (RC20 Comparative Sociology). Melbourne Convention and Exhibition Centre. 2023.6.25–7.1. 一般発表. What Are the Social Conditions for the Successful VET in Japan? 英語.

H. 国内学会での活動

- 第 75 回日本教育社会学会大会. 日本教育社会学会. 弘前大学. 2023.9.9–9.10. 一般発表. 非大卒者の経済的地位達成——高卒で高所得なのは誰か? (平沢和司との共同報告). 日本語.

アルヴィ宮本なほ子 (ALVEY Miyamoto Nahoko)

G. 国際学会での活動

- Conference 2023: 'Inventing the Human'. Enlightenment Romanticism and Contemporary Culture ERCC Research Unit, University of Melbourne. University of Melbourne and online. 2023.11.30. 一般発表. "Are You Alive?": The Invention of the Human/e in Mary Shelley, Banna Ren, and Fujita Kazuhiro. 英語.

H. 国内学会での活動

- イギリス・ロマン派学会第 49 回全国大会. 日本女子大学目白キャンパス. 2023.10.8. 一般発表. "The Triumph of Life"とヨーロッパの問い直し.
- 日本シェリー研究センター第 32 回大会. 帝京大学霞ヶ関キャンパス. 2023.12.2. 特別講演. "I think you would like it"——二人のシェリーとサファイア.
- 地域文化研究専攻 第 31 回公開シンポジウム. インターセクショナルリティ——新たな地域文化研究の可能性. オンライン. 2023.6.24. コメンテーター.

井坂理穂 (ISAKA Riho)

A. 著書

- 井坂理穂, クラウディア・デーリヒス. 『アジアにおける知の創出と循環——近代インドにおける日本表象の事例から』. p. 37. 東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- Derichs, C. and Isaka, R. Knowledge on the move: Relations, mobilisations and translations in and beyond Asia. *International Quarterly for Asian Studies*. **54.2**. pp. 123–127. 2023.

D. 一般学術論文

- 井坂理穂. 近代インドのベネ・イスラエル知識人とシオニズム——インドのユダヤ・コミュニティからみたパレスチナ. 『ODYSSEUS 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』. **27**. pp. 19–41. 2022.

G. 国際学会での活動

- Guest Lecture. Department of History, Kirori Mal College, Delhi University (Delhi). 2023.3.27. 招待講演. History and manga. 英語.
- The 27th European Conference on South Asian Studies. University of Turin (Turin). 2023.7.27. 一般発表. Storytelling, memorialisation, and politics in colonial and postcolonial Gujarat: The stories of 'martyrs' in Ahmedabad. 英語.
- Seminar. Department of History, University of Delhi (Delhi). 2023.8.30. 招待講演. Maha Gujarat movement revisited: Language, territory, and memory in postcolonial India. 英語.
- Guest Lecture. Aligarh Muslim University, Women's College (Aligarh). 2023.9.2. 招待講演. Japanese travellers and their food experiences in colonial India: Knowledge circulation in early twentieth-century

Asia. 英語.

- Seminar and Lecture Series. Ahmedabad University (Ahmedabad). 2023.9.6. 招待講演. Narrating Japan in colonial Gujarat: The circulation of knowledge in modern Asia. 英語.
- Guest Lecture: The Heritage History Association, Janki Devi Memorial College, Delhi University (Delhi). 2023.9.11. 招待講演. Writing history: location, language and dialogue. 英語.
- Shaping Asia through Knowledge Circuits. Bielefeld University (Bielefeld). 2023.9.29. 一般発表. Location, language, and networks: South Asian studies in Japan and dialogues among South Asianists in Asia. 英語.
- The 6th ACSAS Conference: Connectivity and Mobility in South Asia. 京都大学稲盛財団記念館. 2023.11.17-18. 運営, 司会.
- Currents of Metamorphosis across the Indian Ocean. 大阪大学箕面キャンパス. 2023.12.9. ディスカッション.

H. 国内学会での活動

- 南アジア研究センター・セミナー（報告者：Prof. Ananya Jahanara Kabir）. 東京外国語大学府中キャンパス（ハイフレックス）. 2023.1.19. 企画, 司会.
- 「近現代における食の空間と住まいの変容」プロジェクト研究会. 長崎歴史文化博物館. 2023.2.19. 一般発表. 近代インドのバンガローにみる帝国支配と食の空間.
- 南アジア研究センター・セミナー（報告者: Dr. Trent Brown）. 東京大学駒場キャンパス（ハイフレックス）. 2023.5.19. 企画, 司会.
- 第3回 HINDOWS 文学研究会. オンライン. 2023.6.17. 一般発表. 「シャヒード」の物語——アフマダーバード市の記念碑を手がかりに.
- 日本南アジア学会第35回大会. 神戸大学六甲台第1キャンパス. 2023.9.23. 一般発表. 井坂理穂, Rucha Brahmabhatt. 植民地期グジャラートにおけるアジア認識と女性をめぐる認識——グジャラーティ語女性雑誌の事例から.
- 南アジア研究センター・セミナー（報告者: Dr. Ravikant）. 東京大学駒場キャンパス（ハイフレックス）. 2023.12.13. 企画, 司会.

I. その他の研究活動

- 「アミタヴ・ゴージュを語ろう」トークイベント. トワイライイト（東京／ハイフレックス）. 2023.12.3. 招待講演. アミタヴ・ゴージュ（Amitav Ghosh）の世界.

石井剛（ISHII Tsuyoshi）

B. 分担執筆

- 石井剛. 項目執筆. 啓蒙思想の百科事典編集委員会編. 啓蒙思想の百科事典. p. 714. pp. 566-567. 丸善. 2023.
- 石井剛. 第18章「応答関凱教授「天下観与当代中国的民族政治」」. 干春松, 安楽哲 (Roger Ames)

- 編、『重思天下』. p. 459. pp. 375–387. 香港城市大学出版社. 2023.
- 石井剛. 宗教による近代化? ——中国近代転換期における宗教との邂逅について考える. 末木文美士, 山内志朗, 中島隆博編『未来哲学』第6号. p. 320. pp. 43–60. ぶねうま舎. 2023.
 - 石井剛, 莫加南 (Mark McConaghy), 頼錫三. 第8講「章太炎『斉物論釈』“天籟怒号”对国家民族、語言文化的超克意義」. 頼錫三主編. 『老莊思想与共生哲学』. p. 487. pp. 321–363. 五南図書出版. 2023.
- C. 査読つき論文
- 石井剛 (那希芳訳). “戴震の哲学”話語的成立——梁啓超与胡適的“戴震の哲学”論及其影響. 『南国学術』. **13.4**. pp. 554–571. 2023.
- D. 一般学術論文
- 石井剛. 武田泰淳における中国と日本の戦後社会——『司馬遷』から『秋風秋雨人を愁殺す』まで. *Odysseus*. **27**. pp. 43–60. 2023.
- F. その他の業績
- 石井剛. 書評. 王欽『魯迅を読もう』. 『教養学部報』. **644**. 2022.
 - 末木文美士, 伊達聖伸, 細川瑠璃, 保坂俊司, 石井剛ほか. 討議「国家と宗教」の諸相. 末木文美士, 山内志朗, 中島隆博編『未来哲学』第6号. p. 320. pp. 78–107. ぶねうま舎. 2023.
 - 石井剛. 書評. 王中江『自然と人』. 『週刊読書人』. 2023.10.27.
 - 石井剛. 解題. ポスト産業化時代の山水——渠敬東「山林と社会」論文に寄せて. 『中国 社会と文化』. **38**. pp. 174–177. 2023.
 - 石井剛. 解説. 黄進興『義理学から倫理学へ——清末民初の道德意識の変化』. p. 288. pp. 255–268. 東方書店. 2023.
- G. 国際学会での活動
- 学術講演. 東北師範大学歴史文化学院. 東北師範大学 (オンライン). 2023.1.5. 招待講演. 何以与共戴天? ——合法性観念的日中比較. 中国語.
 - 国立政治大学羅家倫国際漢学講座「危機時刻的知識分子」系列講座「未喪斯文、其如予何? : 危機時刻的漢学研究」第1講. 国立政治大学羅家倫国際漢学辦公室. 国立政治大学 (台北). 2023.3.3. 招待講演. 「文」作為中国文史哲の整合観念: 孔子「文不在茲乎」和武田泰淳の文化反思. 中国語.
 - 学術講演. 国立台湾大学哲学系. 国立台湾大学 (台北). 2023.3.6. 招待講演. 我心何処? ——重温孟子「惻隱之心」. 中国語.
 - 国立政治大学羅家倫国際漢学講座「危機時刻的知識分子」系列講座「未喪斯文、其如予何? : 危機時刻的漢学研究」第2講. 国立政治大学羅家倫国際漢学辦公室. 国立政治大学 (台北). 2023.3.7. 招待講演. 書写实践与靈魂の哲学: 章太炎对清代漢学の継承与『莊子』研究. 中国語.
 - 学術講演. 国立中山大学文学院. 国立中山大学 (高雄). 2023.3.8. 招待講演. 何以与共戴天? ——從丸山真男『忠誠与反叛』談起. 中国語.

- 「共生哲学与『天下』観念」座談会. 国立中山大学文学院. 国立中山大学（高雄）. 2023.3.9. 招待講演. 天民之間：中国的「共在」哲学与其射程. 中国語.
- 国立政治大学羅家倫國際漢学講座「危機時刻的知識分子」系列講座「未喪斯文、其如予何？：危機時刻的漢学研究」第 3 講. 国立政治大学羅家倫國際漢学辦公室. 国立政治大学（台北）. 2023.3.10. 招待講演. 在天地相接之处：從近年來中国「天下」討論看「文」的意義. 中国語.
- 国立政治大学羅家倫國際漢学講座「危機時刻的知識分子」系列講座「未喪斯文、其如予何？：危機時刻的漢学研究」第 4 講. 国立政治大学羅家倫國際漢学辦公室. 国立政治大学（台北）. 2023.3.14. 招待講演. 我們的「危機」与「文」的希望：以『莊子・人間世』為例. 中国語.
- 學術講演. 重慶大学人文社会科学高等研究院. 重慶大学（オンライン）. 2023.5.25. 招待講演. 戴震与世界：科学、情感、啓蒙. 中国語.
- 2023 年中華古典學術傳承創新暑期学校. 山東大学儒学高等研究院. 山東大学（オンライン）. 2023.7.19. 招待講演. 戴震哲学体系的意義和價值：以日本学界的研究視角為徑路. 中国語.
- 日韓災害研究セミナー「災害復興と Slow Disaster」. 釜山大学 SSK Slow Disaster 研究チーム. 釜山大学（釜山）. 2023.7.23. 一般発表. 忘却された記憶について記憶すること. 日本語.
- 學術講演. 中国社会科学院哲学研究所. 中国社会科学院（北京）. 2023.9.1. 招待講演. 章太炎の哲学与当代性. 中国語.
- 「文人画的中日交流史」學術シンポジウム. 北京大学人文社会科学研究院. 北京大学（北京）. 2023.9.4. 一般発表. 学芸茶文：東亜藝文書院的「綜合学芸」唱議与岡倉天心的『茶書』. 中国語.
- 『思考中華民国』新書討論会. 国立陽明交通大学文化研究國際中心. 国立陽明交通大学（オンライン）. 2023.10.15. ディスカッション. 中国語.
- EAA シンポジウム「大学と教養」. 東京大学東アジア藝文書院. 東京大学（駒場）. 2023.10.2. 一般発表. 東京大学的“教養”：教養、General Education、Liberal Arts、文理綜合、藝文学. 中国語.
- 學術講演. 国立中山大学文学院. 国立中山大学（高雄）. 2023.11.3. 招待講演. 反思「啓蒙」：紀念「科学与人生觀」論戰一百周年. 中国語.
- 台湾新道家与跨文化莊子工作坊. 国立中山大学文学院. 国立中山大学（高雄）. 2023.11.4. 司会者. 中国語.
- シンポジウム「中国現当代文学研究与魯迅研究の問題和方法」. 東京大学東アジア藝文書院. 東京大学（駒場）. 2023.12.5. 一般発表. 虚無与縹緲：竹内好的“優等生”批判与人文学科的反思. 中国語.

H. 国内学会での活動

- 第 6 回シンポジウム「国家と宗教」. 未来哲学研究所. 東京大学（駒場）. 2023.3.29. 招待講演. 宗教による近代化？——中国近代轉換期における宗教との邂逅について考える.
- 日本生物地理学会主催市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？ 人類は戦争をやめることができるのか」. 日本生物地理学会. オンライン. 2023.4.28. クロージングリマー

ク。

- 第1回研究会「中国近代の人間論——「科学と人生観」論争百周年を記念して」．学術変革領域「尊厳学の確立——尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて」A03班「アジア・イスラムなどの非欧米圏の尊厳概念史の構築」（課題番号:23H04851）．二松学舎大学. 2023.7.1. コメンテーター.

I. その他の研究活動

- 彭小妍氏講演会「跨文化語彙：方法論的探討」．国立中山大学文学院. 国立中山大学（高雄）. 2023.11.2. コメンテーター. 中国語.
- Kim Hang 氏講演会「現代韓国の文化と民主主義」．東京カレッジ. 東京大学（本郷）. 2023.10.24. コメンテーター.
- 高校生のための哲学ウィンターキャンプ 2023. 東京大学共生のための国際哲学研究センター. オンライン. 2023.12.27. 招待講演. 自由について中国哲学が教えてくれること.

石橋純（ISHIBASHI Jun）

F. その他の業績

- エッセー. 21世紀ダンスミュージックの世界標準——レゲトン. 『まいにちスペイン語』. pp. 120–121. NHK 出版. 2023年7月号.
- 事典項目. ベネズエラ・ボリバル共和国. 『世界のクリスマス百科事典』. pp. 308–311. 丸善出版.
- 事典項目. アフリカ系「混血」社会. 『世界の冠婚葬祭事典』. pp. 360–363. 丸善出版.

H. 国内学会での活動

- 学会発表討論者. 梅崎かほり「アフロボリビア文化」の広がりと変容——新しいアイデンティティの模索. 2023.6.4. 明治大学駿河台キャンパス.

I. その他の研究活動

- 講演会企画・司会・通訳. 第53回現代のラテンアメリカ「メキシコ、ベラクルスにおける民衆音楽運動——伝統、継承、革新」. 2023.11.11. 立教大学ラテンアメリカ研究所主催講演会.

井上博之（INOUE Hiroyuki）

F. その他の業績

- 井上博之. ワークショップ発表記録. メイン・ストリートのはぐれ者——『真昼の決闘』と分裂する共同体. 『日本映画学会第12回例会報告集』. pp. 37–39. 日本映画学会. 2023.

H. 国内学会での活動

- 日本映画学会第12回例会第1回ワークショップ「『真昼の決闘』への挑戦——西部劇の古典を読み直す」. 日本映画学会. 東京工業大学大岡山キャンパス. 2023.6.24. 一般発表. メイン・ストリートのはぐれ者——『真昼の決闘』と分裂する共同体.

- 「逆走文学の系譜」研究会. オンライン. 2023.3.20. 招待講演. 大陸の西、黄金の（悪）夢——フランク・ノリスとカリフォルニア.
- 第3回 LA 研究会. LA 研究会. 2023.3.13. 研究報告. わたしの民を解放しなさい——『マグノリア』の都市空間.
- シンポジウム「東京大学の英語教育——その現在と展望」. 東京大学教養学部英語部会. 東京大学駒場キャンパス/オンライン. 2023.2.18. 報告. 2020 年度教養英語オンライン試験の舞台裏.

王欽 (WANG Qin)

A. 著書

- 王欽. 『悬而未決の主権決断——论卡尔·施米特及其他』EAA Booklet (Scholars' Collections). p. 172. 東京大学出版会. 2023.

B. 分担執筆

- 王欽. 在僭主与哲人之间：重访施特劳斯与科耶夫之争. 娄林（編）. 《施特劳斯与回归古典》. pp. 82–102. 华夏出版社. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- 王欽. 交換様式の変形と「力」の生成——『力と交換様式』について. 『求真』. **28**. pp. 215–228. 2023.
- 王欽. 从“外部”出发——论柄谷行人《探究 I》. 《中国图书评论》. **4**. pp. 8–20. 2023.

E. 翻訳

- 王欽（訳）. 柄谷行人（著）. 《探究（二）》. p. 360. 西北大学出版社. 2023.
- 王欽（訳）. 柄谷行人（著）. 《探究（一）》. p. 256. 西北大学出版社. 2023.

F. その他の業績

- 王欽（編）. 近二十年来日本の中国现代文学研究. 《现代中文学刊》. **2**. 2023.

G. 国際学会での活動

- 第十届全国古典学年会. 中国人民大学（北京）. 2023.6.17–18. 一般発表.
- 未来记忆：人文与社会科学的范式突破与再理论化. 北京大学（オンライン）. 2023. 4.2–5. 一般発表.

I. その他の研究活動

- 王欽. 「意味」の悲劇と「悲劇」の意味. 東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティブ（GSI）第9回 GSI セミナー. 東京大学駒場キャンパス. 2023.7.24.

大塚修 (OTSUKA Osamu)

B. 分担執筆

- 大塚修. スルターンをこえて——セルジューク朝時代の君主号. 佐川英治（編）. 『君主号と歴史世界』. p. 248. pp. 109–128. 山川出版社. 2023.

- 大塚修. モンゴル時代の西アジア——イル・ハン国とラシードゥッディーン. 姜尚中 (総監修). 『アジア人物史5 モンゴル帝国のユーラシア統一』. p. 736. pp. 177–243. 集英社. 2023.

D. 一般学術論文

- 大塚修. ティムール朝における学芸保護と学知——イスカンダル・スルターンの『傑作集』を中心に. 『史苑』. **83.2**. pp. 37–68. 立教大学史学会. 2023.

E. 翻訳

- 亀谷学, 大塚修, 松本隆志. イブン・ワーディフ・ヤアクービー著『歴史』訳注(4). 『人文社会科学論叢』. **14**. pp. 45–70. 弘前大学人文社会科学部. 2023.

F. その他の業績

- 大塚修. 新刊紹介. 黒柳恒男著『増補新版 ペルシア文芸思潮』. 『オリエント』. **65.2**. pp. 185–186. 日本オリエント学会. 2023.
- 大塚修. コラム. イル・ハン国時代の普遍史の世界認識とラシード・アッディーン. 荒川正晴, 弘末雅士 (責任編集). 『岩波講座世界歴史10 モンゴル帝国と海域世界 12～14世紀』. p. 328. pp. 243–244. 岩波書店. 2023.
- 大塚修. コラム. 前近代西アジアの歴史叙述. 山口みどり, 弓削尚子, 後藤絵美, 長志珠絵, 石川照子 (編). 『論点・ジェンダー史学』. p. 320. p. 34. ミネルヴァ書房. 2023.
- 大塚修. 事典項目. ラシードゥッディーン——東西文化交流を牽引した名宰相. 小松久男 (編集代表). 『中央ユーラシア文化事典』. p. 814. pp. 178–179. 丸善出版. 2023.

G. 国際学会での活動

- International Workshop “Banakati and Khvandamir: Value and Readership of Persian General Histories”. Research Institute for Language and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies. Haneda Memorial Hall (Kyoto). 2023.3.21. 招待講演. *Tārīkh-i Banākātī* Reconsidered: Beyond Rashīd al-Dīn-centrism. 英語.
- International Conference “Amir Hamza and Beyond: Historical Narratives and Romances across the Muslim World”. Research Institute for Language and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies. Tokyo University of Foreign Studies, Fuchu Campus (Tokyo). 2023.9.3. 招待講演. *Nihāyat al-Arab* Reconsidered: Reconstructing Pre-Islamic Persian History in the Arabic Historiography. 英語.

H. 国内学会での活動

- 日本オリエント学会第65回年次大会. 大阪大学. 大阪大学箕面キャンパス (大阪). 2023.10.29. 一般発表. ガージャール朝ペルシア語普遍史書研究序説.

岡田泰平 (OKADA Taihei)

A. 著書

- Jose Eleazar R. Bersales, Taihei Okada. *The Japanese Community in Cebu, 1900–1945*. p. 104. Tres de

Abril General Services Inc. 2023. Republished, National Historical Commission of the Philippines. 2023.

D. 一般学術論文

- 岡田泰平. エドサ後の歴史とマルコス家の復権——フィリピン同時代史についての一考察. 『歴史評論』. **878**. pp. 100–109. 歴史科学協議会. 2023.

F. その他の業績

- 岡田泰平. 書評. 本の棚. 津田浩司『日本軍政下ジャワの華僑社会『共栄報』にみる統制と動員』風響社. 2023. 『教養学部報』. **646**. 2023.6.1.

G. 国際学会での活動

- The 8th JSA-ASEAN Conference 2023. The Kantary Hills Hotel (Chiang Mai, Thailand). 2023.12.22–23. 一般発表. Postwar Trials Revisited: Execution, Historical Memory, and Local Events. Special Panel: Philippine–Japan Relations (Book Project). 英語.
- “Philippine Studies Abroad: Promoting the Filipino Identity in a Multicultural, Multipolar World”, Asian Center, University of the Philippines (Quezon City, The Philippines). 2023.11.29. 座談会. 英語.

I. その他の研究活動

- 東京大学地域文化研究専攻 第31回公開シンポジウム インターセクショナルリティ——新たな地域文化研究の可能性. 東京大学駒場キャンパス. 2023.6.24. 一般発表. 司法言説、社会運動、歴史叙述——フィリピン人『慰安婦』をめぐる重層的な理解とその限界.
- The Japanese Community in Cebu, 1900–1945. Cebu Heritage The Palm Glass Hotel (Cebu, Philippines). 出版記念会. 2023.3.11. 英語.

小川浩之 (OGAWA Hiroyuki)

B. 分担執筆

- Ogawa, H. Small Nations, Empires and the Commonwealth: Canada, Quebec, Newfoundland and Saint-Pierre-et-Miquelon in Global Perspective. Date, K., Laniel, J.-F. (eds.). *A New Approach to Global Studies from the Perspective of Small Nations*. p. 281. pp. 173–194. Routledge. 2023.
- 小川浩之. ウクライナ戦争とイギリス——「三つの衝撃」の間の相互作用と国内政治との連関. 細谷雄一 (編). 『ウクライナ戦争とヨーロッパ』. p. 146. pp. 63–73. 東京大学出版会. 2023.
- 小川浩之. ブレグジット後のイギリス. 日本国際問題研究所 (編). 『戦禍のヨーロッパ——日欧関係はどうあるべきか』. p. 167. pp. 81–94. 日本国際問題研究所. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- Ogawa, H. Public Health, Agricultural Administration, and Colonial Policy Studies in Pre-war Japan: A Comparison with Imperial and Commonwealth Studies in Britain. *The Round Table: The Commonwealth Journal of International Affairs*. **112.1**. pp. 27–42. 2023.

F. その他の業績

- 小川浩之. 書評. ウィリアム・アトキンズ著, 山田文訳. 『帝国の追放者たち——三つの流刑地

をゆく』. 柏書房. 2023. 『外交』. **81**. pp. 142–145. 2023.

- 小川浩之. 書評. 千葉芳広. 『帝国主義とパンデミック——医療と経済の東南アジア史』. 吉川弘文館. 2023. 『外交』. **78**. pp. 150–153. 2023.
- Ogawa, H. The British Empire in History and Memory: Britain's Relations with Ireland and India from the Early Twentieth Century to the Present. *European Studies*. **22**. pp. 151–156. 2023.

G. 国際学会での活動

- 2nd British–East Asian Conference of Historians. Institute of Historical Research, University of London. 2023.9.12–9.14. 一般発表. The Empire–Commonwealth, European Integration, and Periodization in the History of Postwar British External Policy. 英語.
- Workshop of the Global Studies Initiative (GSI) Caravan. Komaba I Campus, The University of Tokyo. 2023.8.29. 司会. Venkat Iyer, Reflections on the Northern Ireland Peace Process: Nearly 30 Years On. 英語.
- Maritime Order Workshop. London School of Economics and Political Science and online (Zoom). 2023.8.25. 一般発表. Anglo–South African Relations and Maritime Order in the Indian Ocean and round the Cape, 1955–76. 英語.
- Workshop of the Center for German and European Studies and Global Studies Initiative (GSI) Caravan. Komaba I Campus, The University of Tokyo. 2023.7.26. コメンテーター. Sara Lorenzini, Reinventing Development as the European Way to Escape Cold War Bottlenecks. 英語.
- Workshop of the Center for German and European Studies and Global Studies Initiative (GSI) Caravan. Komaba I Campus, The University of Tokyo. 2023.7.21. 司会. Sara Lorenzini, Global Development: A Cold War History. 英語.
- The Second Owada Chair. Komaba I Campus, The University of Tokyo. 2023.3.22. コメンテーター. Vineet Thakur, Difficult to Judge: The Unresolved Issue of Reconciliation and Reparations in South Africa. 英語.
- Conference on the Pursuit of Trilateral International Order: Europe, the US and Japan in the 1970s. Tokyo Hub, Doshisha University. 2023.1.7. コメンテーター. Thomas Alan Schwartz, Henry Kissinger and Trilateral Cooperation, 1969–1977: Ambivalence or Neglect? 英語.

H. 国内学会での活動

- 日本国際政治学会 2023 年度研究大会. 日本国際政治学会. 福岡国際会議場. 2023.11.10–11.12. 一般発表. イギリスにおけるスプートニク事件の影響——対外政策・科学技術・市民社会.
- 世界政治研究会月例会. 世界政治研究会. オンライン. 2023.8.18. 水野良哉報告「過ぎ去りし時代の擁護者?——脱植民地化及び冷戦期におけるアーノルド・J・トインビーの英連邦論」. コメンテーター.
- 「西洋社会における世俗の変容と「宗教的なもの」の再構成——学際的比較研究」A 班第 9 回研究会. 東京大学駒場 I キャンパス. 2023.7.28. 一般発表. ダニエル・マニックスと脱植民地化、

二つの世界大戦、冷戦の中のカトリック教会。

- 「西洋社会における世俗の変容と「宗教的なもの」の再構成——学際的比較研究」A 班第 8 回研究会. オンライン. 2023.3.28. 一般発表. ダニエル・マニックスと脱植民地化、世界大戦、冷戦の中のカトリック教会。

I. その他の研究活動

- 世界のなかのイギリスとコモンウェルス. エクセレント I 講座「世界を旅する²⁹イギリス・ツアー——帝国の遺産」. 第 6 回. かわさき市民アカデミー. 川崎市生涯学習プラザ. 2023.11.15.
- 小川浩之. 監修. 『地図でわかる 世界の戦争・紛争^①ヨーロッパ・アメリカ——ウクライナ紛争, キューバ危機ほか』. p. 39. 汐文社. 2023.
- 小川浩之. 監修. 『地図でわかる 世界の戦争・紛争^③アフリカ——ソマリア内戦, コンゴ動乱ほか』. p. 39. 汐文社. 2023.
- 講演. 英連邦の過去と現在. 第 2596 回東京目黒ロータリークラブ例会. ホテル雅叙園東京. 2023.1.26.

J. 受賞

- 第 25 回学校図書館出版賞. 全国学校図書館協議会. 『地図でわかる世界の戦争・紛争』全 3 巻. 汐文社. 監修. 2023.

上英明 (KAMI Hideaki)

B. 分担執筆

- 上英明. 漂流する超大国. 遠藤泰生, 小田悠生 (編). 『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』. p. 420. pp. 284–302. ミネルヴァ書房. 2023.

G. 国際学会での活動

- Latin American Studies Association 年次大会. 2023. Latin American Studies Association. オンライン. 2023.5.26. ラウンドテーブル発表. Latin American International Relations in the Late Cold War. 英語.

H. 国内学会での活動

- 大阪大学歴史教育研究会 2023. 大阪大学歴史教育研究会. 大阪大学. 2023.3.18. 招待講演. キューバにとってのアメリカ「帝国」——トランスインペリアル・ヒストリーの可能性を探る. 討論・第二報告.

苅谷康太 (KARIYA Kota)

A. 著書

- イスラーム文化事典編集委員会 (編) (※編集委員を担当). 『イスラーム文化事典』. p. 748. 丸善出版. 2023.

B. 分担執筆

- 苅谷康太. 地域ごとの言語と文字 (アフリカ). イスラーム文化事典編集委員会 (編). 『イス

ラーム文化事典』. p. 748. pp. 302–303. 丸善出版. 2023.

- 荻谷康太. タリーカ, 聖者崇敬 (西アフリカ). イスラーム文化事典編集委員会 (編). 『イスラーム文化事典』. p. 748. pp. 600–601. 丸善出版. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- Kariya, Kota. A Treatise on Polygamy and Concubinage in the Early Sokoto Caliphate: Muḥammad Bello's *al-Qawl al-Man'ūt*. *Journal of Asian and African Studies*. **105**. pp. 31–45. Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies. 2023.

H. 国内学会での活動

- グローバル地中海ワークショップ「アフリカ, 中央ユーラシアをめぐる文化の環流」. グローバル地中海地域研究アジア・アフリカ言語文化研究所拠点. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (ハイブリッド開催). 2023.7.1. 一般発表. ソコト・カリフ国におけるマフディー思想の萌芽.

カルティカ, ダイアナ (KARTIKA, Diana)

川喜田敦子 (KAWAKITA Atsuko)

B. 分担執筆

- 川喜田敦子. 移動する人々と国民の輪郭——占領期から西ドイツへ. 水野博子, 川喜田敦子 (編). 『ドイツ国民の境界 近現代史の時空から』. p. 230. pp. 223–244. 山川出版社. 2023.

D. 一般学術論文

- 川喜田敦子, 林明子. 歴史学の授業へのドイツ語史料導入の試み——大学の専門教育における歴史学と言語学の協働. 『ヨーロッパ研究』. **22**. pp. 89–102. 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター. 2023.

F. その他の業績

- 川喜田敦子. 項目執筆. ドイツの被追放民と東部領土問題. 日本平和学会 (編). 『平和学事典』. p. 778. pp. 158–159. 丸善出版. 2023.
- 川喜田敦子. 解説. ドイツの想起の文化のなかのデミーン——戦争と暴力をどう語るか. エマニュエル・ドロア『デミーンの自殺者たち——独ソ戦末期にドイツ北部の町で起きた悲劇』 (剣持久木・藤森晶子訳). p. 194. pp. 167–173. 人文書院. 2023.

G. 国際学会での活動

- 国際シンポジウム「想起の文化の歴史的評価をめぐって」. 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター主催, 東京大学大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構共催, ドイツ連邦共和国大使館後援, ゲーテ・インスティトゥート東京協力. ゲーテ・インスティトゥート東京ホール. 2023.11.25. 企画・司会.
- 39. Tagung der Initiative zur historischen Japanforschung. Initiative zur historischen Japanforschung. オ

ンライン. 2023.10.23. 一般発表. Die japanische Erinnerungslandschaft. Umgang mit negativen Vergangenheiten. ドイツ語.

- 国際シンポジウム Verehrt-verachtet-vergessen-verstanden? Kriegerdenkmäler als Zeichen (in) der Zeit. Theater im Pumpenhaus (Münster). 2023.9.1. 招待講演. Kriegerehrenmäler und Kriegsdenkmäler in Japan. ドイツ語.
- 同. Abschlussdiskussion: Wie mit dem materiellen Erbe „Kriegerdenkmal“ umgehen?. ドイツ語.
- 小和田記念講座第2回講座. 小和田記念講座 (東京大学・ライデン大学). 東京大学. 2023.3.21. キーノートスピーチ. Memory and Reconciliation. Introduction to an Interdisciplinary Discussion. 英語.

H. 国内学会での活動

- 日本ドイツ学会第39回大会フォーラム. 早稲田大学. 2023.6.18. 一般発表 (林明子と共同). 大学の専門教育における歴史学と言語学の対話と協働——ドイツ語史料をどう読むか.
- 北海道高等学校教育研究大会地理・公民部会 世界史分科会. 北海道有朋高校. 2023.1.12. 招待講演. ドイツの歴史教育——歴史総合の授業のためのヒントを探して.

キハラハント愛 (KIHARA-HUNT Ai)

B. 分担執筆

- Kihara-Hunt, A. and Burke, R. An Alternative Approach: The African Union's SEA Regulatory Framework. Gilder A. Curran D. Holmes G. & Edu-Afful F. eds. *Multidisciplinary Futures of UN Peace Operations*. p. 279. pp. 245–272. Palgrave Macmillan. 2023.
- Kihara-Hunt, A. Holding Individuals Serving the United Nations to Account for Wrongdoing. Edgar A. D. ed. *Handbook on Governance in International Organizations*. p. 384. pp. 232–248. Edward Elgar Publishing Limited. 2023.

F. その他の業績

- Kihara-Hunt, A. *Violating Peace: Sex, Aid and Peacekeeping*. By Jasmine-Kim Westendorf, Ithaca, Cornell University Press, 2020, 232 pp., \$29.95 (Hardcover), ISBN 9781501748059. *International Peacekeeping*. **30.4**. pp. 534–548. Routledge. 2023.
- キハラハント愛. ラジオ番組. 平和とはいったい何か. TBS ラジオ Session [特集] 今こそ考える、平和とはいったい何か. 2023.10.13.

G. 国際学会での活動

- Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting: Making, Keeping, and Sustaining Peace. 2023. ACUNS. United States Institute of Peace. 2023.6.21–22. 招待発表・一般発表. Accountability in UN Peace Operations. 英語. 研究発表.

I. その他の研究活動

- 赤十字国際委員会 (ICRC). 2023 年度国際人道法模擬裁判・ロールプレイ大会. 2023.12.2–12.10.

東京大学チームコーチ（準優勝）. ロールプレイ大会運営委員長.

- UN Office of the High Commissioner for Human Rights/Human Asia. Model Universal Periodic Review (模擬国連人権理事会普遍的審査大会). 2023.8.25. 東京大学チームコーチ.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2023.5.18. 「国際人道法連続セミナー」 #1. 英語. 講師. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2023.5.19. 「国際人道法連続セミナー」 #2. 英語. 講師. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2023.5.26. 「国際人道法連続セミナー」 #3. 英語. 講師. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2023.3.21. “Two Years after the Myanmar Coup: Regional Perspectives on Human Security”. 英語. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. 対面. 2023.6.6. “The Global Humanitarian Landscape: Challenges and opportunities, and the value of coordination”. 英語. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2023.10.26. “Promoting Business Respect for Human Rights in Myanmar: Lessons from Japan”. 英語. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2023.11.1. “Human Rights 75 and Universal Values”. 英語. 企画運営.
- 欧州連合日本代表部セミナー. 対面. 2023.12.11. “75th Anniversary since the Adoption of the Universal Declaration of Human Rights”. 英語. モデレーター.
- 国連人権高等弁務官事務所セミナー. 対面. 2023.12.15. “Abductions by the DPRK in International Criminal Law: Documenting and Understanding Enforced Disappearances Pursuant to International Law”. 英語. 企画運営.
- 国連人権高等弁務官事務所セミナー. 対面・オンライン. 2023.12.15. “Human Rights-Based Approach in Humanitarian Settings”. 英語. 企画運営.

木宮正史 (KIMIYA Tadashi)

B. 分担執筆

- 木宮正史. 제 20 대 대통령선거, 윤석열 정권과 한국외교, 그리고 한일관계 (第 20 代大統領選挙, 尹錫悦政権と韓国外交, そして韓日関係). 鞠重鎬 (編). 『수평화된 한일관계 (水平化した韓日関係)』. p. 350. pp. 47–84. 博英社. 2023.

D. 一般学術論文

- 木宮正史. 韓国・北朝鮮から見た日本の安全保障政策. 『生活経済政策』. **318**. pp. 19–23. 生活経済政策研究所. 2023.
- 木宮正史. 한일 관계의 대칭성과 상호 협력 방안 (韓日関係の対称性と相互協力方案). *JPI Peace Net*. **2023.03**. pp. 1–10. 濟州平和研究院. 2023.

F. その他の業績

講演記録

- 木宮正史. アジア調査会講演会 尹錫悦政権の「新外交」と朝鮮半島を巡る国際関係. 『アジア時報』. **592**. pp. 8–28. 毎日新聞アジア調査会. 2023.

エッセイ

- 木宮正史. 朝鮮半島情勢と日韓安保協力. 『修親』. **770**. pp. 6–9. 修親会. 2023.
- 木宮正史. 日本と韓国は歴史問題で共通了解の維持を. 『公明』. **211**. pp. 42–47. 公明党. 2023.
- 木宮正史. 巻頭言「悩みを共有し知恵を出し合う」日韓関係へ. 『月刊東亜』. **673**. p. 1. 霞山会. 2023.

書評

- 木宮正史. 依然、有効な「管理」の発想. 波多野澄雄『日本の歴史問題 改題新版』2023年、に関する書評. 『公明新聞』. 2023.5.1.

新聞記事

- 木宮正史. 朴裕河氏無罪判決などに関する識者談話. 『産経新聞』. 2023.10.27.
- 木宮正史. 김대중 오부처 선언 25주년 과거사, 중장기 로드맵 마련해 풀어야 (金大中・小淵宣言 25周年、過去史、中長期ロードマップを準備して解決しなければ). 『韓国日報』WEB版. 2023.10.8.
- 木宮正史. 日韓パートナーシップ宣言 25周年に関するインタビュー. 『ソウル新聞』. 2023.10.6.
- KIMIYA Tadashi. Japan's willingness to engage with North Korea may test allies' patience. *Kyodo News*. 2023.7.15.
- KIMIYA Tadashi. South Korea's unwavering determination to improve Japan–South Korea relations. *Think China*, 2023.5.24.
- 木宮正史. 日韓关系新方向. 『聯合早報』. 2023.5.24.
- 木宮正史. 제 14 회 아시안리더십콘퍼런스, 새 한일관계를 위한 기반 구축 (第14回アジアリーダーシップカンファランス 新たな韓日関係のための基盤構築) セッションにおける武田良太日韓議員連盟幹事長との対談. 『朝鮮日報』. 2023.5.18.
- 木宮正史. 岸田首相の訪韓に関する談話インタビュー. *Voice of America* (台湾), 『ソウル新聞』, 『東亜日報』, 『韓国日報』. 2023.5.8–12.
- 木宮正史. 日韓関係に関するインタビュー. 『韓国日報』. 2023.3.30.
- 木宮正史. 日韓財界基金、残る火種 徴用工被告企業の関与、メディア注視. 日韓未来パートナーシップ基金創設に関するインタビュー. 『毎日新聞』. 2023.3.18.
- 木宮正史. 尹氏岸田氏に貸しつukった, 尹錫悦韓国大統領の訪日、日韓首脳会談など、日韓関係に関する談話・インタビュー. 『朝日新聞』. 2023.3.17.
- KIMIYA Tadashi. Interview, Kishida and Yoon look to jump-start ties with first official summit. *The Japan Times*. 2023.3.16.

- 木宮正史. 元徴用工問題に関する韓国政府の解決案、日韓関係に関するインタビュー. 『ソウル新聞』, 『韓国日報』, 『東亜日報』, 時事通信配信『北海道新聞』など. 2023.3.6-8.
- 木宮正史. 동북아 ‘신지정학 시대’…한·중·일 관계 해법을 듣다“한·일 모두 ‘안미경중’…공통 이해 기반해 ‘비대국’ 목소리 키워야” (東北アジア新地政学時代 日中韓関係の解法を問う日韓共に『安美経中』共通利害に基づき『非大国』の声を反映させなければ). 『京郷新聞』. 2023.1.3.

放送出演

- 木宮正史. 令和 5 年日韓関係の変化と今後を読み解く. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.11.24.
- 木宮正史. 日米韓首脳会談の成果と今後. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.9.22.
- 木宮正史. 北朝鮮の核に対する日米韓の動き. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.8.4.
- 木宮正史. どうなる？ 福島第一原発の処理水をめぐっての日韓関係. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.6.23.
- 木宮正史. 日米韓連携の行方は. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.5.5.
- 木宮正史. 日韓首脳会談から 1 か月 関係改善への課題は?. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.4.18.
- 木宮正史. 日韓首脳会談から 2 週間 韓国側の反応は. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.3.31.
- 木宮正史. 한일관계, 다시 갈림길 앞에 서다 (韓日関係、再び岐路に立つ). 韓国 KBS テレビ. 9층시사국 8 회 (9階時事局 8回) . 2023.3.22.
- 木宮正史. 日韓首脳会談に関するインタビュー. 日本テレビ. スッキリ. 2023.3.17.
- 木宮正史. 日韓関係に関するインタビュー. 新唐人テレビ (米国). 『環球直撃』. 2023.3.15.
- 木宮正史. パネリストとして出演. BS フジ. プライムニュース 韓国が日本に急接近！ 尹政権の本音と建前を読み解く. 2023.3.9.
- 木宮正史. 日韓関係に関するインタビュー. 韓国 SBS テレビ『ニュース』. 2023.3.7.
- 木宮正史. 北朝鮮の軍事挑発に関するインタビュー. 香港フェニックステレビ. 2023.3.6.
- 木宮正史. 「徴用」をめぐる問題 解決への道筋は?. NHKR1. マイあさけさの聞きたい. 2023.2.10.
- 木宮正史. パネリストとして出演. BS フジ. プライムニュース 今年の日韓関係と朝鮮半島情勢を展望. 2023.1.11.

G. 国際学会での活動

- インド太平洋戦略と韓日関係の展望. 世宗研究所日本研究センター, 民主平和統一諮問会議, 東北アジア歴史財団. ソウル民主平和統一諮問会議会議室. 2023.12.21. 招待講演. 討論者.
- 持続可能な日韓関係の構築. 大韓民国駐福岡総領事館. 福岡ホテルニューオータニ博多. 2023. 11.24. 招待講演. 日韓関係の現在、そして未来構想——「悩みを共有し知恵を出し合う」日韓関

係へ。

- 日韓関係の未来を思考するラウンドテーブル第3回会議。戸田平和研究所。世宗研究所。東京紀尾井カンファランス。2023.11.13。招待講演。「悩みを共有し知恵を出し合う」日韓関係へ——対称化する日韓関係にどう対応し、何を生み出すのか。
- Korean Global Forum 2023, 韓国政府統一部。ソウルホテルウェスティンチョソン。2023.8.30–31。招待講演。Evolution of South Korea's Unification Policy and Its Significance Today: From the Viewpoint of Korea–Japan Relations。韓国語。
- 河龍出ワシントン大学教授『後発産業化の社会学——日韓比較』をめぐって。東京大学韓国学術研究センター。東京大学駒場Iキャンパス。2023.6.5。一般発表。司会兼討論。韓国語。主催者。
- The 14th Asian Leadership Conference 2023, The Era of Upheaval: The Road to Collaboration and Innovation。朝鮮日報。ソウルホテル新羅。2023.5.17–18。招待講演。悩みを共有し知恵を出し合う日韓関係に。
- 日韓次世代フォーラム 日本の専門家との懇談会。世宗研究所日本研究センター。東京大学弥生キャンパス。2023.2.1。招待講演。日本と韓国——その関係と比較。韓国語。
- 第5回東京大学／ソウル大学フォーラム 相互から学ぶ国際化の新たな視点——ソウル大学の日本研究、東京大学の韓国研究。東京大学本郷キャンパス。2023.3.10。一般発表。対称的・相互競争関係下のSNU/UTokyo 学術協力の可能性。
- 第56回韓日・日韓協力委員会合同会議。日韓(韓日)協力委員会。ソウルロッテホテル。2023.1.17。招待講演。激動の国際関係に、対称的相互競争的な日韓関係は、いかに対応するのか？。

H. 国内学会での活動

- 日本国際政治学会2023年度研究大会院生若手研究分科会。日本国際政治学会。福岡国際会議場。2023.11.11。一般発表。討論者。
- 毎日新聞アジア調査会講演会。毎日新聞アジア調査会。東京毎日新聞社。2023.7.27。招待講演。尹錫悦政権の「新外交」と朝鮮半島をめぐる国際関係。
- コリアフェス講座。リベラルアーツ学術院。神田外語大学。2023.7.17。招待講演。対称へと変容する日韓関係。
- 安全保障研究会。内閣官房。東京大手町サンケイプラザ。2023.6.6。一般発表。尹錫悦政権の「新外交」と朝鮮半島をめぐる国際関係。
- 書評会木宮正史『日韓関係史』をめぐって。東京大学韓国学術研究センター。東京大学駒場Iキャンパス。2023.3.11。一般発表。討論者。主催者。
- 「世界史」の中の韓国 その構造変動に関する総合的研究。九州大学韓国研究センター。九州韓国研究者フォーラム。福岡九州大学西新プラザ。2023.3.7。招待講演。激動する国際政治の中での韓国・朝鮮半島の軌跡と展望——冷戦・分断下の体制劣勢・開発独裁から体制優位・先進民主主義国へ。
- 民間有識者会合「日韓における国民的記憶の断層と現在の緊張——その構造変革に向けて」。早

稲田大学和解学プロジェクト. 早稲田大学早稲田キャンパス. 2023.3.6. 招待講演. 対称的相互競争的日韓関係にいかに対応するのか.

- 朝鮮半島問題懇談会講演会. 朝鮮半島問題懇談会. 東京日本記者クラブ会議室. 2023.2.7. 招待講演. 激動の国際関係に、対称的相互競争的関係の日韓はいかに対応するのか.

I. その他の研究活動

一般向けの講演会

- 浦和社会生活大学講座. 浦和社会生活大学. さいたま埼玉県県民健康センターホール. 2023.12.23. 招待講演. 朝鮮半島と日本.
- かわさき市民アカデミー講座, 国際関係ワークショップ. 川崎かわさき市民アカデミー. 2023.4.7. 招待講演. 日本と朝鮮半島——その歴史と現状をどのように考えたらいいいのか, 日韓関係にどのように取り組むのか. それぞれ 12 回ずつ.
- 武田良太衆議院議員朝食講演会. 武田良太衆議院議員事務所. 東京ホテルニューオータニ. 2023.3.1. 招待講演. 対称的相互競争的日韓関係にいかに対応するのか.

菅豊 (SUGA Yutaka)

B. 分担執筆

- 菅豊. 知の『鑑定人』——専門知批判は専門知否定であってはならない. 望月昭秀 (編). 『土偶を読むを読む』. p. 431. pp. 401–424. 文学通信. 2023.
- 菅豊. 生活領域と資源利用. 小川直之 (編). 『講座日本民俗学 5 生産と消費』. p. 234. pp. 104–117. 朝倉書店. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- 菅豊. 生活安全保障視野下の日本共有資源論. 『文化遺産』. 2023 年第 3 期 (総第 84 期). pp. 109–117. 中山大学. 2023.
- 스가 유타카 (菅豊). 민속학의 비극——일본 민속학의 세계사적 전망에서 (民俗学の悲劇——日本民俗学の世界史的展望から). 『실천민속학연구 (実践民俗学研究)』. 41. pp. 83–111. 실천민속학회 (実践民俗学会). 2023.

D. 一般学術論文

- 菅豊. 因習化する伝統文化——闘牛をめぐる無形文化遺産化の失敗から. 『法政理論』. 55.4. pp. 33–53. 新潟大学法学会. 2023.

G. 国際学会での活動

- 第二屆東亜細文化交流互鑑大連論壇. 大連市文化和旅游局, 大連外国語大学. 大連外国語大学 (中国・大連市) / オンライン. 2023.10.14. 招待講演. 通過非物質文化遺産遺產實現和諧共生——今日守護文化, 是為明日構築和平.

H. 国内学会での活動

- 歴史科学協議会第 57 回大会. 歴史科学協議会. 早稲田大学 (東京) / オンライン. 2023.12.2. 招

待講演. 歴史実践とナラティブ・チェンジ——非専門家とのパブリック・ヒストリー.

杉山清彦 (SUGIYAMA Kiyohiko)

B. 分担執筆

- 杉山清彦. ハン・ハーン・皇帝——中央ユーラシアと東アジアのなかの大清君主号. 佐川英治 (編). 『君主号と歴史世界』(史学会シンポジウム叢書). p. xiv + 231. pp. 29–50. 山川出版社. 2023.
- 杉山清彦. ユーラシアに広がるチベット仏教の世界. 岩下哲典, 岡美穂子 (責任編集). 『つなぐ世界史 2 近世』. p. 207. pp. 78–83. 清水書院. 2023.
- 杉山清彦. 概説 世界の構図の転回. 岩下哲典, 岡美穂子 (責任編集). 『つなぐ世界史 2 近世』. p. 207. pp. 106–109. 清水書院. 2023.
- 杉山清彦 (共著). 高等学校教科書. 新詳 世界史探究. p. 360. 帝国書院. 2023.
- 杉山清彦 (共著). 高等学校指導書. 新詳 世界史探究 指導資料. p. 360. 帝国書院. 2023.

F. その他の業績

- 杉山清彦. 解説. 東アジア・中央ユーラシアを取り巻く最新の研究動向と『新詳 世界史探究』. 『地歴・公民科資料 ChiReKo』. 11 (2023 年度 2 学期号). pp. 8–11. 2023.
- 杉山清彦. 序文. はじめに. 東京大学広報室 (編). 『素朴な疑問 VS 東大 「なぜ？」から始まる学術入門』. pp. 8–11. 2023.

H. 国内学会での活動

- 昭和 12 年学会第 5 回研究発表大会. 昭和 12 年学会. TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター. 2023.9.17. 招待講演. 「武人」たちの東アジア近世——八旗と武士.
- 国際日本文化研究センター共同研究会. 共同研究班「比較のなかの「東アジア」の「近世」——新しい世界史の認識と構想のために」. 国際日本文化研究センター. 2023.9.16. 招待講演. 武人政権としての大清帝国と日本近世国家——「東アジア」の「近世」再考.

I. その他の研究活動

- 杉山清彦. 講演. 神奈川県社会科部会歴史分科会・高大連携講座「結びつく世界をどう学ぶか? ——16~17 世紀のユーラシア」. 神奈川県社会科部会歴史分科会. 鎌倉学園中学校・高等学校. 2023.8.8. 結びつくユーラシアの地殻変動——16~17 世紀のユーラシア東部.

高橋英海 (TAKAHASHI Hidemi)

D. 一般学術論文

- Takahashi, H. The *Shhimo* Section of the *Bet Gazo* Manuscript at the Japanese National Museum of Ethnology. *The Harp: A Review of Syriac, Oriental and Ecumenical Studies*. 39 (= Festschrift: Fr. Dr. Baby Varghese). pp. 231–281. St. Ephrem Ecumenical Research Institute. 2023.

F. その他の業績

- 高橋英海. 事典項目. キリスト教 (中央アジア). 『中央ユーラシア文化事典』. 丸善出版. 2023.
- 高橋英海. コメント (1) (2022 年度共通論題報告 13 世紀ユーラシアにおけるキリスト教世界とモンゴル帝国). 『西洋史研究』. 52. pp. 209–212. 西洋史研究会. 2023.

G. 国際学会での活動

- Takahashi, H. 9th North American Syriac Symposium. Yale University, New Haven. 2023.6.11–14. 招待講演. On the Peripheries of Syriac Studies: Syriac Christianity and Syriac Language in Contact with Others. 英語.
- Takahashi, H. 10th World Syriac Conference. St. Ephrem Ecumenical Research Institute (SEERI), Kottayam. 2023.9.8–16. 一般発表. Further Notes on the Bet Gazo Manuscript at the Japanese National Ethnological Museum, Osaka. 英語.
- Takahashi, H. Workshop “The Scholarly Experience: Wisdom in the Premodern Syriac World”. Max Planck Institute for the History of Science, Berlin. 2023.10.5–6. 招待講演. *Hekmt* as Science and Divine Wisdom in Barhebraeus. 英語 (オンライン参加).

H. 国内学会での活動

- 高橋英海. シルクロード学研究会 2023 夏. 帝京大学文化財研究所／キルギス共和国国立科学アカデミー. 帝京大学文化財研究所. 2023.7.5–6. チュー川流域のシリア語史料.

高橋史子 (TAKAHASHI Fumiko)

B. 分担執筆

- 松岡亮二, 高橋史子, 中村高康. 『東大生、教育格差を学ぶ』. p. 344. 光文社新書. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- 高橋史子, 額賀美紗子, 徳永智子. 「日系企業が自分に合わないと思う」——南米系移民第二世代の日本での就職活動経験. 『異文化間教育』. 59. pp. 132–144. 異文化間教育学会. 2023.

D. 一般学術論文

- 高橋史子. 報告. 大学の学びと「社会」の接続——ビジネス・キャリア・社会問題に関する社会連携授業の事例から. 『教養教育高度化機構 シンポジウム 2022 報告書 大学における社会連携による教育の可能性』. 2023.

E. その他の業績

- Cultural Diversity Index (カルチュラル・ダイバーシティ・インデックス) 策定委員会. 教材. 『組織の文化的多様性指標 Cultural Diversity Index (beta 版) (カルチュラル・ダイバーシティ・インデックス) 実践教材——2023 年度版』. 2023.
- 高橋史子. 書評. 書評『沖縄のアメラジアン——移動と「ダブル」の社会学的研究』野入直美著／ミネルヴァ書房. 『異文化間教育』. 57. pp. 155–157. 異文化間教育学会. 2023.
- 高橋史子. 書評. 芝野淳一著『「グアム育ちの日本人」のエスノグラフィー——新二世のライフコースと日本をめぐる経験』. 『教育学研究』. 90.1. pp. 199–201.

- 高橋史子. 雑誌記事. 多様性と平等はどのように両立できるのか. 『月刊高校教育』. 2023 年 5 月号. pp. 68–69. 2023.

G. 国際学会での活動

- Pre-Study Series: Education and Development for a Sustainable World: Seeking Breakthroughs We Need, Asia Education Leader Course. 東北大学. オンライン. 2023.11.28. 講演. Migration, Inclusion and Education. 英語.
- 2023 WERA Focal Meeting. World Educational Research Association. National Institute of Education, Nanyang Technological University (シンガポール). 2023.11.22–24. 共同発表. Diversity and Educational Equity in Japanese Schools: Developing a Culturally Responsive Pedagogy for Immigrant Students. 英語.
- Symposium: Designing a Japanese University for the Globalizing Century. 国際日本文化研究センター. 2023.8.22–23. 招待講演 (共同). A (The?) Japanese Version of ‘Diversity’ & ‘Inclusion’ in Universities under Globalization. 英語.
- 京論壇「人口構成分科会」. 京論壇. オンライン. 2023.8.15. 講演. Immigrants Integration in Japan: Focus on Education. 英語.
- Nissan Seminar. Nissan Institute of Japanese Studies, Oxford School of Global and Area Studies, University of Oxford. オンライン. 2023.5.12. 招待講演 (共同). How do Japanese public high schools respond to immigrant students? Challenges of diversity and educational equity in Tokyo. 英語.

H. 国内学会での活動

- 「大学発アーバンイノベーション神戸」『「外国ルーツの子どもたち」支援を軸とした多文化都市創生のための実証的研究』研究チーム・一般社団法人グローバル多文化社会研究所 共同勉強会. 神戸大学および一般社団法人グローバル多文化社会研究所. 神戸大学およびオンライン. 2023.11.3. NPO・企業とのアクションリサーチ事例——移民難民背景のある学生の就職活動調査・誰もが働きやすい社会へ.
- 異文化間教育学会第 44 回大会. 異文化間教育学会. 東京都立大学. 2023.6.10–11. 共同発表. 移民生徒の教育機会を阻む重層的バリアと変革可能性——都立高校 30 校におけるインタビュー調査をもとに.

I. その他の研究活動

- 一般財団法人ルビ財団との共同研究. ルビによる社会的包摂への効果予備調査.
- 認定 NPO 法人 Living in Peace との共同研究. 組織の文化的多様性指標 Cultural Diversity Index (beta 版) 開発およびα版へのアップデート監修.
- 児童の民族的・文化的多様性に対応する学校づくり——都内小学校におけるアクション・リサーチ.
- 外国ルーツの人々と共に働く——文化的多様性を推進する Cultural Diversity Index 公開シンポジウム. 主催：認定 NPO 法人 Living in Peace. 共催：一般社団法人 Welcome Japan, 東京大学大

学院総合文化研究科「人間の安全保障プログラム」および持続的平和研究センター. SHIBUYA QWS およびオンライン. 2023.6.16.

- 異文化間教育学会学会誌編集委員
- 関東社会学会研究委員

高山大毅 (TAKAYAMA Daiki)

F. その他の業績

- 高山大毅. 書評. 山本嘉孝著『詩文と経世——幕府儒臣の十八世紀』. 『日本思想史学』. **55**. pp. 181–185. 日本思想史学会. 2023.

H. 国内学会での活動

- 和漢比較文学会第 42 回大会. 和漢比較文学会. 京都府立大学. 2023.10.7. シンポジウム「儒者とは何か、文人とは何か——日本漢詩文をめぐる「担い手」の問題」. ディスカッション.
- 日本中国学会第 75 回大会. 日本中国学会. 大阪大学. 2023.10.8. 書評シンポジウム 宋哈『平安朝文人論』. 評者.

竹村文彦 (TAKEMURA Fumihiko)

D. 一般学術論文

- 竹村文彦. ゴンゴラのソネットを読む——「病をかかえて方々をめぐり, 道を見失った」. 『詩と思想』. **426.3**. pp. 132–135. 土曜美術社出版販売. 2023.

F. その他の業績

- 竹村文彦. インタビュー記事. ピカレスクロマン伝——人はなぜ「悪」に魅入られるのか. 『歌劇』10月号. **1177**. pp. 126–129. 宝塚クリエイティブアーツ. 2023.
- 竹村文彦. エッセイ. 国書刊行会創業 50 周年に寄せて. 『会報』. **30**. pp. 14–15. 日本イスパニヤ学会. 2023.

H. 国内学会での活動

- 日本イスパニヤ学会第 69 回大会. 日本イスパニヤ学会. 中央大学多摩キャンパス. 2023.10.14–15. 組織委員.

伊達聖伸 (DATE Kiyonobu)

A. 著書

- 伊達聖伸 (編). 『フランスのイスラーム／日本のイスラーム』. p. 301. 水声社. 2023.

B. 分担執筆

- 伊達聖伸. フランスのライシテとセクト規制. 島藺進 (編). 『政治と宗教——統一教会問題と危機に直面する公共空間』. pp. 135–166. 岩波新書. 2023.
- 伊達聖伸. フランス宗教社会学の流れ. 上智大学外国語学部フランス語学科 (編). 『地域研究

- のすすめ フランス語圏編 2023』. pp. 173–184. 上智大学外国語学部フランス語学科. 2023.
- 伊達聖伸. 公共空間における宗教——フランスの事例を通して. 岸政彦, 稲場圭信, 丹野清人 (編). 『宗教・エスニシティ』. pp. 25–45. 岩波書店. 2023.
 - 伊達聖伸. 宗教と世俗の歴史から見た人新世の吉田健一. 川本直, 檜原辰郎, 武田将明 (編). 『吉田健一に就て』. pp. 19–43. 国書刊行会. 2023.
- C. レフェリー付き学術論文
- 伊達聖伸. 「静かな革命」期における世俗的ナショナリズムの宗教性とカトリックの反応. 『ケベック研究』. **15**. pp. 10–27. 日本ケベック学会. 2023.
 - DATE, K. « Le Japon, un modèle de laïcité pour la France au moment de la loi de 1905 ? Interactions, malentendus et appropriations réciproques ». *Ebisu*. **60**. pp. 255–278. 2023.
- D. 一般学術論文
- 伊達聖伸. アナトール・フランスにおける二つのライシテの相剋. 『未来哲学』. **6**. pp. 11–26. 2023.
- E. 翻訳
- 小倉和子, 小松祐子, 古地順一郎, 伊達聖伸, 矢内琴江 (訳). ジャック・ラクルシエール (著). 『ケベックの歴史』. p. 242. 水声社. 2023.
- F. その他の業績
- 伊達聖伸. エッセー. フランスのセクト規制法から何を学ぶべきか. 『教養学部報』東京大学教養学部. 2023.2.1.
 - 伊達聖伸. コラム. パリ・ノートルダムの火災から4年——再建に関わる姿の映像美. 『中外日報』時事評論. 2023.4.14.
 - 伊達聖伸. コラム. ライシテをめぐる議論——旧統一教会、日本会議も視野に. 『中外日報』時事評論. 2023.7.14.
 - 伊達聖伸. 書評. 2023年上半期の収穫から. 『週刊読書人』. 2023.7.28.
 - 伊達聖伸. 書評. ジョリオン・バラカ・トーマス『自由を偽装する——アメリカ占領下の日本における宗教の自由』Jolyon Baraka Thomas, *Faking Liberties: Religious Freedom in American-Occupied Japan*. 『日本研究』. **67**. pp. 211–215. 2023.
 - 伊達聖伸. コラム. 「宗教」作るフランスの学校——アバヤ着用禁止を巡って. 『中外日報』時事評論. 2023.10.13.
 - 伊達聖伸. 討論記録. はみだしの技法——鶴見俊輔における宗教. 『加藤周一現代思想研究センター報告』. 創刊号. pp. 57–82. 2023.
- G. 国際学会での活動
- DATE, K. « Une laïcité (un)consciente à la japonaise dans une société divisée », Colloque annuel de SODRUS (Centre de recherche Société, Droit et Religions à l'Université de Sherbrooke), Université de Sherbrooke (Campus Longueuil), 9 juin 2023.
 - DATE, K. « Le Japon : « laïcité de séparation » sur la scène, « laïcité de collaboration » en coulisse ? »,

Panel « Laïcité sous pression », 37^e Conférence de la Société internationale pour la sociologie des religions (SISR), Academia Sinica, Taïpei, 4 juillet 2023.

H. 国内学会での活動

- 「アナトール・フランスにおける二つのライシテの相剋」未来哲学研究所第6回シンポジウム、東京大学101号館セミナールーム+オンライン、2023.3.29.
- 「フランスとケベックのイスラーム——いかに比較するか」第82回日本宗教学会、東京外国語大学、2023.9.10.

I. その他の研究活動

- 伊達聖伸、小国の経験から普遍を問い直す、2022年度GSIキャラバン研究報告会、オンライン、2023.4.4.
- 伊達聖伸、政教分離研究の広がり——フランス政府給費留学生時代から現在まで、ABCの会、日仏会館、2023.5.13.
- 伊達聖伸、2つの普遍——フランスと日本の宗教と世俗の研究から、ファンダメンタルズ・プログラム研究会、東京大学駒場キャンパス+オンライン、2023.9.30.
- 伊達聖伸、吉田健一から広がる世界、シンポジウム「吉田健一の文学」、東京大学駒場キャンパス、2023.11.23.
- 公開合評会「崎濱紗奈『伊波普猷の政治と哲学——日琉同祖論再読』」、EAA、GSIキャラバン、2023.1.31、東京大学藝文書院セミナールーム+オンライン、司会。
- 公開合評会「森山工『贈与論』の思想——マルセル・モースと〈混ざりあい〉の倫理」、東京大学藝文書院・加藤周一おしゃべりの会/羊の談話室・東京大学教養学部フランス語・イタリア語部会、2023.2.11、東京大学藝文書院セミナールーム+オンライン、司会。
- 公開合評会「張燦輝『香港存歿』合評会」GSIキャラバンプロジェクト「『小国』の経験から普遍を問いなおす」、2023.3.3、東京大学藝文書院セミナールーム、評者発言。
- 「宗教と社会」学会第31回学術大会テーマセッション「戦時下の教会——体制転換後のウクライナとその周辺国における宗教・国家・社会」、2023.6.25、愛知学院大学、コメント。
- ジャン・ボベロ講演会「ライシテの新しい課題——フランスと日本の比較」、2023.11.17、日仏会館・フランス国立日本研究所（オンライン）、司会・コメント。

田中創 (TANAKA Hajime)

B. 分担執筆

- 田中創、アウグストゥスのゆくえ——ローマ帝国統治の模索、佐川英治（編著）、『君主号と歴史世界』、p. 248、pp. 149–165、山川出版社、2023.

F. その他の業績

- 田中創、(文庫版解説)『ローマ人の世界』、その成り立ちを考える、長谷川博隆（著）、『ローマ人の世界——社会と生活』、p. 394、pp. 387–394、筑摩書房、2023.

H. 国内学会での活動

- 第2回グローバル・スタディーズ・セミナー. 東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティブ/地域文化研究専攻共催. 東京大学駒場キャンパス. 2023.11.30. (コメント) 藤崎衛「死すべき教皇と永続する教皇職——西洋中世におけるカトリック教会と教皇権の普遍性」.

I. その他の研究活動

- 田中創. 日本西洋古典学会ホームページ コラム・Q&A コーナー. ローマ法上の奴隷の扱いについて. 日本西洋古典学会ホームページ. 2023.2.9. <https://clsoc.jp/QA/2023/20230209.html>.
- 田中創. 日本西洋古典学会ホームページ コラム・Q&A コーナー. 古代ローマの両具について. 日本西洋古典学会ホームページ. 2023.7.14. <https://clsoc.jp/QA/2023/20230714.html>.
- 田中創. 文献紹介. NHK ブックス『ローマ史再考 なぜ「首都」コンスタンティノーブルが生まれたのか』. 東京大学 UTokyo BiblioPlaza ホームページ. 2023.12.4. https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/J_00124.html.

棚瀬あずさ (TANASE Azusa)

C. レフェリー付き学術論文

- 棚瀬あずさ. 詩人ボルヘスとモデルニスモ——『創造者』論. 『迷宮』. 13. pp. 22–52. ボルヘス会. 2023.

F. その他の業績

- 棚瀬あずさ. エッセイ. バベルの図書館における奇書——ボルヘス以降のマイクロコスモス. 『ユリイカ』. 55.9 (通巻 806 号) . pp. 291–298. 青土社. 2023.7.1.

G. 国際学会での活動

- エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学言語文学研究センター. 2023.8.25. 招待講演. Traducir la modernidad: *Fin de siècle* y las contradicciones del lenguaje poético en Hispanoamérica y Japón. スペイン語.
- Simposio Internacional Rubén Darío: el archivo y la vida. ノートルダム大学. 2023.11.2. 一般発表. Rubén Darío, lector del simbolismo. スペイン語.

H. 国内学会での活動

- 東京大学ラテンアメリカ研究センター (LAINAC) Brown Bag Series #43. 東京大学駒場キャンパス. 2023.5.19. 報告者: Gustavo Carvajal, Jessica Courtney Locke. 企画・司会. スペイン語.
- 東京大学ラテンアメリカ研究センター (LAINAC) Brown Bag Series #45. 東京大学駒場キャンパス. 2023.7.9. 報告者: Zeb Tortorici. 企画・司会. 英語.
- 東京大学ヒューマニティーズセンター リエゾントーク VIII. 東京大学本郷キャンパス. 2023.10.28. 招待発表. 翻訳できない言葉が翻訳されるとき——19世紀、パリ、そして〈辺境〉の詩人たち.
- 第205回東京スペイン語文学研究会. 東京大学駒場キャンパス. 2023.11.18. 一般発表. 近代詩

の地域性——新しいイスマノアメリカ・モデルニスム研究のためのノート。

I. その他の研究活動

文化イベント等への登壇

- 文学イベント「世紀末の娘たち——ヒーロー、ヒロイン、そして失敗の叙事詩」. インスティトゥット・セルバンテス東京. 2023.6.13.
- ホセ・レサマ=リマ『パラディーソ』(国書刊行会) 刊行記念トークショー. ブックス&カフェ・ブーザンゴ. 2023.7.28.
- ペルー映画祭 2023. 新宿 K's Cinema. 2023.10.29. 『情熱の大河に消える』のアフタートーク.

谷垣真理子 (TANIGAKI Mariko)

B. 分担執筆

- Tanigaki M. Hong Kong as a Base for China Watching and the Growth of Byron S J Weng's Scholarship. Shih. C., Tanigaki. M., Clemente. T. (eds.) *Studies of China and Chineseness since the Cultural Revolution: Volume 2: Micro Intellectual History through De-central Lenses*. p. 187. pp. 89–120. World Scientific Publishing Co Pte Ltd. 2023.
- 谷垣真理子. 香港返還. 中野聡, 木畑洋一 (編). 『岩波講座 世界歴史 23 冷戦と脱植民地化 II 二〇世紀後半』. p. 312. pp. 233–234. 岩波書店.

C. レフェリー付き学術論文

- 谷垣真理子. 友聯社の創立と東南アジアとの出版ネットワーク. CIRAS Discussion Paper 108 『蕉風・椰雨・犀鳥声——冷戦期の東アジア・東南アジアにおける華語出版ネットワーク』. pp. 25–37. 京都大学東南アジア地域研究研究所. 2022.

D. 一般学術論文

- Tanigaki M. Cultural Exchange between Hong Kong and Malaya: The Case of Union Cultural Organization. 『マレーシア研究』 (*Malaysian Studies Journal*) . 12. pp. 50–68. 日本マレーシア学会 (JAMS) . 2023.

I. その他の研究活動

- 谷垣真理子. 香港とマラヤ (マレーシア) を結ぶ意外な文化交流——戦前の中文図書ビジネスと戦後の華語文芸雑誌. 中国学.com. 東京大学社会科学研究所中国学イニシアティブ. 2023 年 10 月 23 日. <https://sinology-initiative.com/society-and-culture/>.

田原史起 (TAHARA Fumiki)

B. 分担執筆

- 田原史起. 習近平政権下の農村社会——地域の「都市化」. 中国研究所 (編). 『中国年鑑 2023』. p. 512. pp. 67–72. 明石書店. 2023.
- 田原史起. 交叉地帯と基層幹部. 小嶋華津子・磯部靖 (編). 『中国共産党の統治と基層幹部』.

慶應義塾大学出版会. p. 301. pp. 91–119. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- Tahara, F. Heteronomous rationality and rural protests: Peasants' perceived egalitarianism in post-taxation China. *China Information*. **37.1**. pp. 3–23. 2023.

D. 一般学術論文

- 田原史起. 見えない城壁——集団化時期中国農民の文化心理をめぐって. 『ODYSSEUS』(東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要). **27**. pp. 61–82. 2023.
- 田原史起. スキマの小集落——中国貴州省石村の創造性. 『農村計画学会誌』. **42.3**. pp. 102–108. 農村計画学会. 2023.

F. その他の業績

- 田原史起. インタビュー記事 土地収用に怒った農民たちは今 開発のひずみ、習政権はどう収めた?. 『朝日新聞 DIGITAL』. 2023.3.7.
<https://www.asahi.com/articles/ASR365QFRR33UHBI03F.html>.

H. 国内学会での活動

- 日本中国研究会令和4年度第4回講演会. ザ・キャピトルホテル東急(東京). 2023.1.11. 招待講演. 中国農村の暮らし——江西省花村より.
- スクリーンで巡る文化芸術世界の旅講演会. 大草公民館(広島). 2023.12.9. 招待講演. インド農村の暮らし.

張政遠 (CHEUNG Ching-yuen)

B. 分担執筆

- 張政遠. 新渡戸稻造、日本與臺灣. 楊貞徳, 吳曉昀(編). 『近代啟蒙脈絡中的思想論争: 倫理與人道』. p. 226. pp. 207–226. 中央研究院中國文哲研究所. 2023.
- Cheung, Ching-yuen. Yasukuni, Okinawa and Fukushima: Philosophy of Sacrifice in the Nuclear Age. Loewen, N. et Rostalska A. (eds.). *Diversifying Philosophy of Religion*. Bloomsbury Academic. p. 344. pp. 247–262. 2023.

D. 一般学術論文

- 張政遠. 1949年以降の香港哲学——唐君毅、勞思光、張燦輝. 『思想史研究』. **30**. pp. 177–180. 2023.
- 張政遠. 物語と日本哲学. 『求真』. **28**. pp. 115–126. 2023.
- 張政遠. 巡禮與物語——關於災難記憶. 『日本學研究』. **35**. pp. 13–25. 2023.

E. 翻訳

- 張政遠(訳). 張燦輝(著). 『香港存歿』. p. 324. 論創社. 2023.
- 張政遠(訳). 岩谷信(著). 『同情論』の「愛の秩序」と「応答愛」の倫理——シェーラーの倫理思想・管見. 『中道』. **1**. pp. 218–235. 2023.

F. その他の業績

- 張政遠. 唐君毅與新亞書院：私學與官學的三部曲. 『EAA Forum 21 大學書院教育模式的經驗與思考』. pp. 31–34. 2023.
- 張政遠. 鷺田清一《聆聽的力量：臨床哲學試論》（書評）. 『哲學與文化』. **50.3**. pp. 121–124. 2023.

G. 国際学会での活動

- 張政遠. 講演. 日本哲學與文學之死亡思想. 国立清華大学. 31.5.2023.
- 張政遠. 講演. 從他者到異人. 中央研究院. 30.5.2023.
- Cheung, Ching-yuen. Fūdo As Terruño, Sixth IAJP annual Conference. Hobart and William Smith Colleges. 16.8.2023.
- 張政遠. 五行原論與新風土論. 台灣新道家與跨文化莊子工作坊. 国立中山大学. 3.11.2023.
- 張政遠. Saudade 與 Liberdade. 禮、情與倫理：國際視野下的日本哲學國際學術研討會. 国立台湾大学. 5.11.2023.
- 張政遠. 講演. 西田幾多郎的文化哲學. 東吳大学. 6.11.2023.

H. 国内学会での活動

- Cheung, Ching-yuen. The idea of “WE” in Nikkei Communities in Sao Paulo. International Workshop Toward a Better WE. Oku-Biwako Makino Grand Park Hotel. 22.2.2023.
- 張政遠. アフターマス巡礼. 哲学論集研究会. 東京大学. 2.3.2023.
- 張政遠. 物語と日本哲学. 日本哲学ワークショップ——物語り論の今. 東北大学. 6.3.2023.
- Cheung, Ching-yuen. The Past, Present and Future of Kikoe Okimi. Recovering Lost Voices: Women and Femininity in Japanese Intellectual History. Kanda University of International Studies. 18.3.2023.

土屋和代 (TSUCHIYA Kazuyo)

B. 分担執筆

- Tsuchiya, Kazuyo. The 1992 LA Uprising and the Politics of Representation: Multilayered Memories in *Twilight: Los Angeles, 1992*. Takezawa, Yasuko, and Akio Tanabe (eds.). *Race and Migration in the Transpacific*. p. 280. pp. 201–230. Routledge. 2023.
- Tsuchiya, Kazuyo. “The Other America” and the Quest for Economic Justice: Race, Gender, and the Struggle over Guaranteed Income in the Late 20th Century United States. Date, Kiyonobu, and Jean-Francois Laniel (eds.). *A New Approach to Global Studies from the Perspective of Small Nations*. p. 290. pp. 216–235. Routledge. 2023.

E. 翻訳

- 兼子歩, 坂下史子, 高内悠貴, 土屋和代 (訳). マイケル・ブロンスキー (著). 『クリアなアメリカ史——再解釈のアメリカ史・2』. p. 368. 勁草書房. 2023.

H. 国内学会での活動

- 土屋和代. 共同企画. 司会. インターセクショナリティ——新たな地域文化研究の可能性. 第

31 回地域文化研究専攻主催公開シンポジウム, オンライン開催. 2023.6.24.

- 土屋和代. 報告. ロレッタ・J・ロスとリプロダクティブ・ジャスティス——強制不妊手術（断種）との闘いを中心に. 第 57 回アメリカ学会年次大会シンポジウム「性と生殖をめぐる正義（reproductive justice）の行方——奴隷制時代からロウ対ウェイド判決後まで」. 専修大学生田キャンパス. 2023.6.3.
- 土屋和代. 共同企画. 宗教とジェンダー——「主体的」実践としての信仰を問い直す. 第 20 回ジェンダー史学会年次大会シンポジウム. 奈良女子大学. 2023.12.10.

I. その他の研究活動

- 日本アメリカ史学会. 運営代表（2022.9～2023.9）.
- ジェンダー史学会. 常任理事, 大会企画委員.
- アメリカ学会. 理事, 清水博賞選考委員.

筒井賢治（TSUTSUI Kenji）

鶴見太郎（TSURUMI Taro）

B. 分担執筆

- 鶴見太郎. ウクライナにおけるユダヤ人の歴史. 黛秋津（編）. 『講義 ウクライナの歴史』. p. 320. pp. 160–185. 山川出版社. 2023.

F. その他の業績

- 鶴見太郎. 書評：塩川伸明著『国家の解体——ベレストロイカとソ連の最期』. 『西洋史学』. 275. pp. 69–73. 日本西洋史学会. 2023.
- 鶴見太郎. 書評：ピーター・N・スターンズ『人権の世界史』. 世界史研究所ウェブサイト「世界史の眼」. 2023.3.
- 書評：ジョン・C・スーパー&ブライアン・K・ターリー『宗教の世界史』. 世界史研究所ウェブサイト「世界史の眼」. 2023.6.
- 鶴見太郎. イスラエルの孤立主義とパレスチナ人のメンタルヘルス——国際社会に心はあるか（上・下）. 『現代ビジネス』（学術文庫&選書メチエ）. 2023.11. オンライン.

H. 国内学会での活動

- 2023 年度研究大会. 日本国際政治学会. 福岡国際会議場. 2023.11.12. 一般発表. あるロシア・ユダヤ人のなかの国際関係——D・S・パスマニク『クリミアにおける革命期』を読む.
- シンポジウム「帝国と民族のあいだ——パレスチナ／イスラエルをめぐるもうひとつの層」. スカイブ研究会・東京大学中東地域研究センターほか共催. 駒場キャンパス. 2023.12.16. 組織・主催.
- 上記シンポジウム. 一般発表. 集合的記憶の入植——ロシア東欧におけるポグロムとパレスチナにおける暴動／反乱.

外村大 (TONOMURA Masaru)

B. 分担執筆

- 外村大. 第 12 章 冷戦と経済成長下の日本の「外国人問題」. 加藤丈太郎 (編). 『入管の解体と移民庁の創設——出入国在留管理から多文化共生への転換』. p. 297. pp. 152–172. 明石書店. 2023.

D. 一般学術論文

- 外村大. 「和解」はなぜ困難なのか——慰安婦問題と市民運動・歴史研究. 『Odysseus 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』. 27. pp. 83–111. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. 2023.

F. その他の業績

- 外村大. 百年前の朝鮮人虐殺を考えるシンポジウムの開催. 『教養学部報』. 649. 東京大学教養学部. p. 1. 2023.
- 外村大. インタビュー 時代の正体 朝鮮人・中国人虐殺 100 年 政府、行政 事実無視の動き. 『神奈川新聞』. 2023.10.6. 神奈川新聞社. p.9. 2023.
- 外村大. 虐殺を生き延びた人びとへの人権侵害——《In-Mates》から考える. 『ペン』. 185. 東京町田ペンクラブ. pp. 14–17. 2023.
- 外村大. 私たちの歴史としての「福田村」、そしてこれから. 『福田村事件』. 映画福田村製作委員会. pp. 40–41. 2023.
- 外村大. 人間を取り戻し、虐殺をやめるために——関東大震災と日本社会. 『世界』. 973. 岩波書店. pp. 252–259. 2023.
- 外村大. 1923 年虐殺の思想基盤——日本近代が生み出したもの. 『月刊社会民主』. 819. 社会民主党全国連合機関紙宣伝局. pp. 11–14. 2023.
- 外村大. なぜ朝鮮人虐殺の歴史を記憶すべきか——1923 年以前とその後の 100 年. 『平和フォーラム／原水禁・News Paper』. 2023.3. 平和フォーラム. pp. 6–7. 2023.
- 外村大. 関東大震災朝鮮人虐殺から 100 年. 『月刊部落解放』. 834. 『部落解放』編集委員会. pp. 2–3. 2023.
- 外村大. Web 記事. おさらい日本の近現代史 「日本」と東アジアの関係を読み解くために 第 18 回 在日朝鮮人の歴史 (2) ——1945 年以降. Web 日本評論. 2023.

G. 国際学会での活動

- 外村大. 東アジアにおける文化権力の対立と拮抗——和解のための模索. 翰林大学校日本学研究所. 翰林大学校 (オンライン参加). 2023.9.16. 招待講演. 和解のための歴史研究の課題——慰安婦問題解決の運動から考える.
- 外村大. 関東大虐殺 100 周年記念——流言蜚語、フェイクニュース、プロパガンダ. 檀国大学校東洋学研究院. 檀国大学校 (ビデオ参加). 2023.11.23. 招待講演. 1923 年 9 月以後の朝鮮人認

識と虐殺への論及。

H. 国内学会での活動

- 関東大震災 100 周年国際学術シンポジウム——自然災害における人権リスクと未来への道. 社団法人 2・8 韓日未来会. 東京富士大学. 2023.9.2. 招待講演. 1923 年後の在日コリアンへの精神的圧迫をめぐって.
- 第 25 回在日コリアン人権啓発東京セミナー. 一般社団法人在日コリアン・マイノリティー人権研究センター. 東京貸会議室・教室 内海. 2023.6.29. 講演. 朝鮮人虐殺の記憶継承と歴史研究.
- 日本移民学会第 33 回大会ラウンドテーブル 在日コリアンとトラウマ映像作品《In-Mates》から考える. 日本移民学会. 神田外国語大学. 2023.6.25. 一般発表. 1923 年後の在日コリアンへの精神的圧迫をめぐって.

中野耕太郎 (NAKANO Kotaro)

B. 分担執筆

- 中野耕太郎. 金メッキ時代. 遠藤泰生, 小田悠生 (編). 『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』. p. 345. pp. 151–166. ミネルヴァ書房. 2023.
- 中野耕太郎. 20 世紀アメリカの勃興. 永原陽子, 吉澤誠一郎 (編). 『岩波講座 世界歴史 21 二つの大戦と帝国主義 II 20 世紀前半』. p. 300. pp. 109–141. 岩波書店. 2023.

D. 一般学術論文

- 中野耕太郎. ポスト・トゥルース時代の歴史認識——米国「歴史戦争」から 1619 年プロジェクト論争へ. 『歴史評論』. **878**. pp. 19–34. 2023.

E. 翻訳

- 中野耕太郎, 奥田博子 (訳). ローラ・ハイン (著). 『ポストファシズムの日本——戦後鎌倉の政治文化』. p. 350. 共訳. 人文書院. 2023.

F. その他の業績

- Kotaro Nakano. Endorsement for Tarik Merida's *Japanese Racial Identities within U.S.–Japan Relations, 1853–1919*, Edinburgh University Press. February 2023.
- 中野耕太郎. 近代史部会 社会変動と人びと コメント 1. 『歴史学研究 増刊号』. **1041**. pp. 88–90. 2023.
- 中野耕太郎. 訳者あとがき. ローラ・ハイン (著). 『ポストファシズムの日本——戦後鎌倉の政治文化』. p. 350. pp. 345–350. 人文書院. 2023.

G. 国際学会での活動

- ロマン・ユレ講演会. 東京大学西洋史学教室. 東京大学. 2023.10.17. 司会者.
- CPAS Seminar: Globalizing American Studies, with Laura Hein. Center for Pacific and American Studies. University of Tokyo. November 14, 2023. Moderator.

H. 国内学会での活動

- 第2回アメリカ1970年代研究会. 科研費基盤研究(C)「現代アメリカにおける国家・市民関係の史的転換——1960～70年代の変容を中心に」. オンライン. 2023.3.28. 一般報告. 徴兵停止(1973年)とシティズンシップ.
 - 2023年度歴史学研究会大会. 歴史学研究会. 一橋大学(ハイフレックス). 2023.5.28. 招待討論. 近代史部会 社会変動と人びと コメント1.
 - GSI グローバル・スタディーズ・セミナー Season2 第8回. 東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティブ(GSI). 東京大学(ハイフレックス). 2023.6.29. 招待講演. 歴史叙述をグローバル化する——アメリカの事例を中心に.
 - 2023年度CPAS 公開シンポジウム「モンロー・ドクトリンのグローバルヒストリー」. アメリカ太平洋地域研究センター(CPAS). 東京大学. 2023.12.2. 趣旨説明・司会.
- I. その他の研究活動
- アメリカ学会理事.
 - 史学研究会評議員.
 - 『西洋史学』(日本西洋史学会)編集委員.

中村元哉 (NAKAMURA Motoya)

A. 著書

- 中村元哉ほか. 『改革開放萌芽期の中国——ソ連観と東欧観から読み解く』. p. 160. 晃洋書房. 2023.

D. 一般学術論文

- NAKAMURA, Motoya. Modern Chinese History in Japan: The Entanglement of Constitutional Government and Revolution. *Chinese Studies in History*. **55.4**. pp. 264–280. 2023.

F. その他の業績

- 中村元哉. 「中国国民党と中国共産党」宣伝政策の相違点——いまだに根強い誤解と、2つの時期の「不連続性」. 中国学.com. 2023.12.5. <https://sinology-initiative.com/>.
- 中村元哉. 1980年代の中国はソ連・東欧をどう見ていたか. 中国学.com. 2023.10.23. <https://sinology-initiative.com/>.
- 中村元哉ほか. 明治以降日本人の中国旅行記(解題)増補版. 東洋文庫超域アジア研究部門現代中国研究班(国際関係・文化グループ). 2023. DOI: 10.24739/0002000041.
- 中村元哉ほか. 日本社会党国会議員秘書訪中団(1968年)に関する坪井隆治氏へのインタビューおよび史料. 東洋文庫超域アジア研究部門現代中国研究班(国際関係・文化グループ). 2023. DOI: 10.24739/0002000042.

H. 国内学会での活動

- 日本学術会議公開シンポジウム「歴史学が開く未来——新たな視角と研究=教育=実践のサイクルを通じて」. 日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会. 日本学術会議

(東京)〔オンライン開催〕. 2023.9.10. 開催運営事務局兼司会.

- 中国社会文化学会 2023 年度大会. 中国社会文化学会. 東京大学 (東京). 2023.7.9. コメンテーター.
- アジア政経学会 2023 年度全国大会. アジア政経学会. 東京大学 (東京). 2023.6.10–11. 大会実行委員会副委員長.

I. その他の研究活動

- 台湾歴史研究暨檔案史料專題系列講座. 成功大学 (台南). 2023.12.8. 講演. 実証地域研究的危機与其克服——以日本中国近現代史研究為例. 中国語.
- 台湾歴史研究暨檔案史料專題系列講座. 成功大学 (台南). 2023.12.7. 講演. 美蘇冷戦下台湾与香港的自由主義. 中国語.
- Modern Chinese History in Japan—Cambridge Workshop. Cambridge, University of Cambridge. 2023.11.4. 報告. New Developments in the Study of Modern Chinese History in Japan: Research on the History of Reform and Opening-Up.
- 政治大学学術交流会. 東京大学 (東京). 2023.10.26. 講演. 実証地域研究的危機及其克服——以日本中国近現代史研究為例. 中国語.
- 高大連携歴史教育. 東京都立立川高校 (立川). 2023.9.30. 講演. なぜ歴史教育は必要なのか? ——中国研究から.
- 日本学術会議史学委員会「歴史認識・歴史教育」分科会. 日本学術会議 (東京). 2023.9.27. 見解. 変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題——対話に基づく複眼的把握と開かれた歴史教育をめざして. 幹事.
- 高大連携歴史教育. 三重県立飯南高校 (松阪). 2023.9.21. 講演. なぜ歴史教育は必要なのか? ——中国研究から.
- 高大連携歴史教育. 静岡県立浜松西高校 (浜松). 2023.9.5. 講演. なぜ歴史教育は必要なのか? ——中国研究から.
- 東洋文庫超域アジア部門現代中国班国際関係・文化グループ国際ワークショップ「中台の中国近現代史研究の動向」. 東洋文庫 (東京). 2023.9.15. 中国語. 主催者兼総司会.
- 学術変革領域 A「尊厳学の確立」尊厳学フォーラム第 1 回. 二松学舎大学 (東京). 2023.7.1. 報告. 「科学と人生観」論争後の張君勳の人権思想と中華民国憲法——人間の尊厳の制度的基盤.
- 東洋文庫超域アジア部門現代中国班国際関係・文化グループ国際ワークショップ「日中米の中国近現代史研究の動向」. 東洋文庫 (東京). 2023.6.24. 中国語. 主催者兼総司会.
- 新しい近現代中国研究の学術交流 (第 3 回). 東京大学 (東京). 2023.6.3. 中国語. 主催者.
- 国際研究交流会「中華人民共和国の歴史はどう研究されているのか」. 東京大学 (東京). 2023.6.2. 中国語. 主催者.
- 名瀬地区高等学校社会科教育研究会総会. 名城大学附属高等学校 (名古屋). 2023.5.30. 講演. 学術研究と歴史教育のギャップをどのように埋めるのか——中国近現代史研究の最新成果と中

高の歴史教育.

- 慶應義塾大学東アジア研究所講座「歴史のなかの中国社会——疎外と連帯」. 慶應義塾大学（東京）. 2023.5.19. 講演. 近代リベラリズムからみる疎外と連帯.
- 「国際漢学」集中講義. 政治大学（台北）. 2023.3.14. 依頼講演. 日本高中的新型歴史教育「歴史総合」——将日本近現代史放在世界史里. 中国語.
- 「国際漢学」集中講義. 政治大学（台北）. 2023.3.13. 依頼講演. 從日本中国近現代政治思想史研究来看的日本近現代中国觀. 中国語.
- 「国際漢学」集中講義. 政治大学（台北）. 2023.3.13. 依頼講演. 実証地域研究的危機及其克服——以日本中国近現代史研究為例. 中国語.
- 高大連携歴史教育. 相愛中学校・高等学校（大阪）. 2023.2.18. 報告. 中国近現代史研究の最新成果と中高の歴史教育——学術研究と歴史教育のギャップをどのように埋めるのか.

西川杉子（NISHIKAWA Sugiko）

H. 国内学会での活動

- 「近世ユーラシアの宗教アイデンティティ：グローバル多元主義と地域大国主義の相剋」研究会. 東京大学（zoom）. 2023.2.12. 招待講演. 同胞・異邦人・「非国民」——近世イングランドのプロテスタント・インタナショナル.

橋川健竜（HASHIKAWA, Kenryu）

A. 著書

- 佐久間みかよ, 橋川健竜, 増井志津代, 小倉いずみ（編）. 『改革が作ったアメリカ——初期アメリカ研究の展開』 . p. 302. 小鳥遊書房. 2023.

B. 分担執筆

- 橋川健竜. 船出する共和国の曲折. 遠藤泰生, 小田悠生（編）. 『初めて学ぶアメリカの歴史と文化』 . p. 390. pp. 76–92. ミネルヴァ書房. 2023.
- 橋川健竜. 19世紀前半の通史と経済. 佐久間みかよ, 橋川健竜, 増井志津代, 小倉いずみ（編）. 『改革が作ったアメリカ——初期アメリカ研究の展開』 . p. 302. pp. 286–289. 小鳥遊書房. 2023.

H. 国内学会での活動

- ワークショップ A: OAH-JAAS Workshop: Liberty and Equality in Early America. 第 57 回アメリカ学会年次大会. アメリカ学会. 専修大学生田キャンパス. 2023.6.4. コメント.

浜田華練（HAMADA Karen）

B. 分担執筆

- Hamada, K. Old Issues in the New Regime: The Revival of Religious Controversies Between Byzantines and Armenians after the Fall of the Bagratid Kingdom. Rapp, C. and Bonfiglio, E. (eds.). *Armenia and*

Byzantium without Borders: Mobility, Interactions, Responses (Armenian Texts and Studies Series, Volume 7). p. 344. pp. 236–252. Brill. 2023.

D. 一般学術論文

- 浜田華練. 回顧と展望——ヨーロッパ(中世/ロシア・ビザンツ). 『史學雑誌』. **132.5**. pp. 338–340. 史学会. 2023.

E. 翻訳

- 浜田華練(訳). ネルセス・シュノルハリ(著). 信をもって告白します. St. Nerses Shnorhali. I Confess with Faith: Polyglot Prayerbook. p. 591. pp. 323–336. Congregazione Armenia Mechitarista. 2023.

F. その他の業績

- 浜田華練. 項目執筆. コミタス. アルメニア語. アルメニア文学. キリスト教. エチミアジン. 『中央ユーラシア文化事典』. p. 814. pp. 198, 428, 472, 512, 568. 丸善出版. 2023.
- 浜田華練. 監修. 〈特集〉コーカサスが呼んでいる！ ジョージア/アルメニア/アゼルバイジャン. 『TRANSIT』. **62**. pp. 20–23, 130–131. 講談社. 2023.

G. 国際学会での活動

Nerses Shnorhali: The Gracious Patriarch (ネルセス・シュノルハリ没後 850 周年記念国際アルメニア学会). メスロプ・マシュトツ古写本研究所(イエレヴァン). 2023.6.21–6.23. 一般発表. In such bitter, harsh, and unfavorable times: War, Violence, and Refuge in Nersēs Šnorhali's Writings. 英語, アルメニア語.

H. 国内学会での活動

- シンポジウム「東方キリスト教における〈個〉の思想」(第23回東方キリスト教学会年次大会). 東方キリスト教学会. 東京大学駒場キャンパス. 2023.8.23–8.24. 一般発表. ロシア修道文学における「シリアのイサアク」の影響——“мир”概念に着目して.

速水淑子 (HAYAMI Yoshiko)

B. 分担執筆

- HAYAMI Yoshiko. Ein «um 20 Jahre vorweggenommene[r] «Nationalsozialismus»»? Nietzsche-Rezeption im Tod in Venedig und ihre Entwicklung in den dreißiger Jahren. Herausgegeben von Alexander Honold, Arne Klawitter. *Thomas Mann, «Der Tod in Venedig» und die Grenzgänge des Erzählens*. Schwabe Verlag. 2023. S. 163–180.

F. その他の業績

- 速水淑子. インタビュー記事. 名前を知って「見方」が変わる。ベルリンで留学して. 私を変えたあの時、あの場所. 東京大学教養学部国際交流センター・グローバルゼーションオフィス. 2023.11.18.

G. 国際学会での活動

- 6. Ostasiatische DAAD-Zentrenkonferenz 2023: Soziale Ungleichheit und Exklusion in Ostasien—Im

Spiegel der deutschen und europäischen Erfahrungen. Zentrum für Deutschland- und Europastudien. Chung-Ang-Universität, Seoul, Korea. 2023.11.11. 招待講演. Fakten und Realität bei Hannah Arendt: Wirklichkeitssinn als Basis eines politischen Gemeinwesens. ドイツ語.

H. 国内学会での活動

- 第 31 回地域文化研究専攻公開シンポジウム「インターセクショナリティー——新たな地域文化研究の可能性」. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. オンライン開催. 2023.6.24. 招待講演. クライスト「聖ドミンゴ島の婚約」(1811)における「混血」少女の表象——権力性を帯びた複数の物語の交差.
- 第 39 回日本ドイツ学会大会シンポジウム「デジタル×ドイツ研究」. 日本ドイツ学会. 早稲田大学早稲田キャンパス. 2023.6.18. 企画・司会.

I. その他の研究活動

- ミュンヘン大学訪問学生交流レクチャー. 東京大学駒場キャンパス・オンライン併行開催. 2023.9.11. 招待講演. Politik, Lüge und Erzählung. ドイツ語.
- 横浜市立大学エクステンション講座「ホロコーストの歴史と記憶——ナチス・ドイツのジェノサイドに向き合う」. 横浜市立大学. 2023.11.29. 招待講演. 戦後ドイツ文学におけるホロコーストの表象のありかたを考える.

原和之 (HARA Kazuyuki)

E. 翻訳

- 原和之. ファブリス・ブールレーズ. クィアの人々が分析的行為に触れるとき——「タクト (tact)」を再考する. 『I.R.S.——ジャック・ラカン研究』. 22. pp. 111–126. 日本ラカン協会. 2023.

F. その他の業績

- 原和之. 「理論」の身分——ジャック・デリダ著『絵葉書 II』の刊行に寄せて. 『コメント通信 【特集】 デリダ・記憶・精神分析』. 30. pp. 3–5. 水声社. 2023.
- 原和之. 新刊紹介: 十川幸司、藤山直樹 (編著) 『精神分析のゆくえ——臨床知と人文知の闘』. 金剛出版, 2022 年 11 月. 『表象文化論学会ニューズレター<Repre>』. 48. オンライン. 表象文化論学会. 2023. <https://www.repre.org/repre/vol48/books/editing-multiple/2-2/>.
- 原和之. 大会シンポジウム「「クィア精神分析」の可能性——精神分析とジュディス・バトラー」. 『I.R.S.——ジャック・ラカン研究』. 22. pp. 109–110. 日本ラカン協会. 2023.
- 原和之. 書評 Jacques Lacan, *Le Séminaire, Livre XIV, La logique du fantasme*, Paris, Le Champ Freudien Editeur/Éditions du Seuil, 2023, 425 p. 『I.R.S.——ジャック・ラカン研究』. 22. pp. 145–158. 日本ラカン協会. 2023.

G. 国際学会での活動

- ISPP–SIPP Conference 2023 “Limits, Frontiers, Rims and Borders”. ISPP–SIPP. The University of

Nicosia (Cyprus). 2023.9.21. 招待講演. L'absolutisation de la propriété et ses conséquences théoriques dans la question de l'amour : Autour du livre *Le circuit des affects* par Vladimir Safatle. フランス語.

- ISPP-SIPP Conference 2023 "Limits, Frontiers, Rims and Borders". ISPP-SIPP. The University of Nicosia (Cyprus). 2023.9.22. 一般発表. La topo-logie lacanienne, ou qu'est-ce que le "dehors" pour le langage?. フランス語.

H. 国内学会での活動

- 第2回ジジエク研究会. 科学研究費補助金基盤研究 (B) 「スラヴォイ・ジジエク思想基盤の解明——ヘーゲル、ラカン解釈を中心に」. オンライン. 2023.7.15. 招待講演. 並べてから読む——『最も崇高なヒステリー者』(1988)と『イデオロギーの崇高な対象』(1989).
- 第62回哲学会シンポジウム「「世界哲学」という視点」. 哲学会. 東京大学本郷キャンパス. 2023.10.29. 招待講演. 生成を語る——精神分析と哲学.

I. その他の研究活動

- 科学研究費補助金・基盤研究 (C) 「文化の新たな理論言語——ラカンの精神分析に基づく人文科学のマテーム構築の基礎的研究」研究代表者.
- 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 「スラヴォイ・ジジエク思想基盤の解明——ヘーゲル、ラカン解釈を中心に」研究分担者・翻訳プロジェクトリーダー.
- 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 「結婚の歴史再考——フランスの事例から見る (ポスト) 結婚、生殖、親子、家族」研究分担者.
- 講演会「啓蒙をめぐる (Le débat des Lumières) ——アラン・ヴァニエ氏講演会」(於東京大学駒場キャンパス. 2023.12.2.フランス語) の組織運営.

平松彩子 (HIRAMATSU Ayako)

D. 一般学術論文

- 平松彩子. 共和党におけるトランプと支持派の今後——連邦議会予備選挙における資金の供給源. 『国際問題』. 712. pp.25-35. 国際問題研究所. 2023.

H. 国内学会での活動

- 2023年度日本比較政治学会 (第26回大会). 山梨大学. 2023.6.17-6.18. 自由論題 A 政治思想と政党——歴史からの接近. "Democratization in the American South: Federal Enforcement of the Voting Rights Act." 報告者.
- 科学研究費基盤研究 (A) 「現代アメリカにおける政治変動——政党再編と政策的収斂」研究会. 共催: 科学研究費 (若手研究) 旧権威主義地方の全国民主制への統合——アメリカ合衆国深南部州における政党制度の変容. 東京大学法学部. 2023.5.27. アメリカ合衆国司法省による投票権保護——南部地域に対する訴訟と登録官派遣の継続性 1957-1968年. 報告者.

I. その他の研究活動

- 国際問題ウェビナー. 「2022年中間選挙と今後のアメリカ」を論じる. 日本国際問題研究所. オ

オンライン. 2023.5.29. 共和党におけるトランプと支持派の今後. パネリスト.

藤岡俊博 (FUJIOKA Toshihiro)

B. 分担執筆

- Toshihiro Fujioka. Levinas et la pensée économique : aliénation et son au-delà. Corine Pelluchon et Yotetsu Tonaki (dir.), Levinas et Merleau-Ponty. Le corps et le monde. p. 311. pp. 173–185. Hermann. 2023.

E. 翻訳

- 藤岡俊博 (訳). フィリップ・デスコラ (著). 人新世の脱構築. 『日仏文化』. 92. pp. 6–12. 公益財団法人日仏会館. 2023.

F. その他の業績

- 藤岡俊博. 書評. 國分功一郎『スピノザ——読む人の肖像』(岩波新書、2022年). 『教養学部報』. 645. 2023.
- 藤岡俊博. 書評. 内田樹『レヴィナスの時間論——『時間と他者』を読む』(新教出版社、2022年). 『ユダヤ・イスラエル研究』. 37. pp. 67–70. 日本ユダヤ学会. 2023.

H. 国内学会での活動

- 藤岡俊博. 三田哲学会公開シンポジウム. オンライン. 2023.1.27. レヴィナス哲学における時間論の諸相——時間の脱形式化をめぐる.
- 藤岡俊博. 森山工『「贈与論」の思想』公開合評会. 2023.2.11. 〈混ざりあい〉の思想史に向けて——森山工『「贈与論」の思想』をめぐる報告.

藤崎衛 (FUJISAKI Mamoru)

A. 著書

- 藤崎衛. 『ローマ教皇は、なぜ特別な存在なのか——カノッサの屈辱』. p. 162. NHK 出版. 2023.

B. 分担執筆

- 藤崎衛. イエスの生誕, 12月25日, ローマのサトゥルナリア祭と冬至祭, ゲルマン世界の冬至祭, 降誕から公現への十二夜, 古代東方キリスト教のクリスマス, サンタクロースの出現, 中世・近代における祝祭. 樺山紘一, 中牧弘允 (編). 『世界のクリスマス百科事典』. p. 359. pp. 6–9, 10–11, 12–13, 14–17, 18–19, 20–23, 24–27. 丸善出版. 2023.
- Fujisaki, M. Il Giappone per Angelo Orsucci. Giulietti, P., Niglio, O. (eds.). *THESAURUM FIDEI Missionari martiri e cristiani nascosti in Giappone. Trecento anni di eroica fedeltà a Cristo. Atti del convegno internazionale (Lucca, 6–7 maggio 2023)*. p. 208. pp. 171–179. Edizioni La Villa. 2023.
- Fujisaki, M. Papal Contact with the Mongols. Means of Communication in the Thirteenth Century. Ozawa, M., Strack, G., Smith Th. (eds.). *Communicating Papal Authority in the Middle Ages*. p. 208. pp. 145–158. Routledge. 2023.
- 福井憲彦, 秋葉淳, 太田信宏, 加藤玄, 川島真, 工藤晶人, 高野太輔, 佐川英治, 田中創, 西山暁

義, 藤崎衛, 土屋齋嘉, 角田展子, 山本勝治. 『世界史探究』. p. 400. 東京書籍. 2023.

D. 一般学術論文

- 藤崎衛. 西欧とモンゴルの間におけるコミュニケーション——宣教・外交における翻訳・通訳をめぐる問題. 『西洋史研究』. 新輯 52. pp. 158–171. 西洋史研究会. 2023.

F. その他の業績

- 藤崎衛. 書評, Agostino Paravicini Bagliani, *La papessa Giovanna: I testi della leggenda (1250–1500)*. 『西洋中世研究』. 15. pp. 200–201. 西洋中世学会. 2023.

G. 国際学会での活動

- The Papacy and the Mongolian reigns in the 13th and 14th Centuries. The DFG project “Lateinische Kirche im Sondermodus?”. Bergische Universität Wuppertal (ヴッパータール、ドイツ). 2023.7.19–20. 招待講演. Explaining the Christian faith in the papal letters to the Mongols. 英語.
- Kardinalzoom. ミラノ大学ほか. オンライン. 2023.7.7. 組織委員.
- THESAURUM FIDEI Missionari Martiri e Cristiani. Nascosti in Giappone. 300 anni di eroica fedeltà a Cristo. Arcivescovado di Lucca. Palazzo Ducale (ルッカ、イタリア). 2023.5.6–7. 招待講演. La spiritualità della missione e del martirio in Angelo Orsucci. イタリア語.

H. 国内学会での活動

- グローバル・スタディーズ・セミナーSeason 3 第2回. 東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ (GSI). 東京大学 (東京). 2023.11.30. 一般発表. 死すべき教皇と永続する教皇職——西洋中世におけるカトリック教会と教皇権の普遍性.
- 史学会第 121 回大会西洋史部会シンポジウム「中世後期の教皇と文書」. 史学会. 東京大学 (東京). 2023.11.12. 一般発表. 非キリスト教圏君主宛教皇文書にみる自他の呼称.
- イタリア中近世史研究会 2023 年度研究会. イタリア中近世史研究会. 神戸大学 (神戸). 2023.9.4–5. 一般発表. 教皇とモンゴル (特にイル・ハン国) 君主の間における翻訳・通訳をめぐる問題.
- ヨーロッパ中世史研究会 (REN) 定例研究会. ヨーロッパ中世史研究会 (REN). オンライン. 2023.8.9. 一般発表. 教皇権のもとにおける多数決原理の成立と展開.
- 科研費「13–15 世紀の対イスラーム宣教に見るキリスト教的世界観の変容」研究会. 同志社大学 (京都). 2023.3.16. 一般発表. 中世の対イスラーム宣教におけるキリスト教徒側の翻訳及び通訳の問題.
- ヨーロッパ中世史研究会 (REN) 定例研究会. ヨーロッパ中世史研究会 (REN). オンライン. 2023.1.9. 一般発表. 中世教皇庁における教皇と枢機卿の合意形成.

黛秋津 (MAYUZUMI Akitsu)

A. 著書

- 黛秋津 (編著). 『講義 ウクライナの歴史』. p. 320. 山川出版社. 2023.

D. 一般学術論文

- 黛秋津. ウクライナの国境——国家形成とその歴史的背景. 『地理』. **68.4**. pp.51–61. 古今書院. 2023.

F. その他の業績

- 黛秋津. オスマン帝国史の中のユニークな仲介者——マスク・ベイ. 『イスラーム信頼学 News Letter』. **nr. 3**. pp.12–13. 2023.

H. 国内学会での活動

- ロシア史研究会 2023 年度大会. ロシア史研究会. 九州大学. 2023.11.28. 招待講演. ロシア・オスマン戦争時におけるロシア＝西欧外交——18 世紀後半を中心に（＜共通論題 A＞「ロシア・ソ連の対外戦争と政治・外交」）.

村松真理子 (MURAMATSU Mariko)

B. 分担執筆

- 村松真理子. 北イタリアの伝統食品を守る町と田園. 中部・南イタリアの有機農業と「テリトリーオ. 中西徹（編）. 『現代国際社会と有機農業』. p. 410. pp. 227–254, 255–280. 放送大学教育振興会. 2023.
- Muramatsu, M. Gabriele D’Annunzio and Japonism. In: *Gabriele D’Annunzio and World Literature: Multilingualism, Translation, Reception* (Edited by Elisa Segnini and Michael Sbualka). p. 401. pp. 48–66. Edinburgh University Press. 2023.

D. 一般学術論文

- Muramatsu, M. Tracce iconografiche come segni della memoria-oblio del cristianesimo giapponese in Italia tra XV e XVII secolo. In: *Thesaurum fidei. Missionari martiri e cristiani nascosti in Giappone. Trecento anni di eroica fedeltà a Cristo*. Atti del convegno internazionale (Lucca, 6-7 maggio 2023). Paolo Giulietti, Olimpia Niglio (a cura di). p. 323. pp. 91–105. Edizioni La Villa. 2023

F. その他の業績

- 村松真理子. 概観（イタリア文学）. 『文藝年鑑 2023』. pp. 82–84. 新潮社. 2023.
- Muramatsu, M. ‘Passione’: ricordo di Ōe Kenzaburo. In: «Insula Europea». 2023. <http://www.insulaeuropea.eu/tag/ricordo/>.
- 村松真理子. デカメロン of 丘で考える「パッシーネ」——大江健三郎氏を悼む. 放送大学ウェブマガジン ONAIRweb. 2023. <https://webmagazine.ouj.ac.jp/202307tokyoshibuya/>.

G. 国際学会での活動

- 国際シンポジウム. Thesaurum fidei. Missionari martiri e cristiani nascosti in Giappone. Trecento anni di eroica fedeltà a Cristo. ルッカ大司教座主催. 2023.5.6–7. ルッカ市. 研究発表“Tracce iconografiche come segni della memoria-oblio del cristianesimo giapponese in Italia tra XV e XVII secolo”. イタリア語. 発表および組織委員.

- 講演会. ローマ大学東洋学部主催. 同大学. 2023.3. 22. “Italian Antiquity and Japanese Experience of the University of Tokyo at the Roman Villa at Somma Vesuviana”. 招待講演. 英語.
- 国際研究発表会「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元——ソマ・ヴェスヴィアーナ 2019–2022」. 東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構地中海地域研究部門主催. 東京大学駒場 I キャンパス 18 号館ホール. 2023.2.11. 研究発表「教育としてのソマ・ヴェスヴィアーナ所在遺跡発掘調査」. 発表および企画責任者.

森井裕一 (MORII Yuichi)

B. 分担執筆

- 森井裕一. ウクライナ危機とドイツ——慎重な対応から貢献の拡大・強化へ. 広瀬佳一編. 『NATO (北大西洋条約機構) を知るための 71 章』. p. 372. pp. 248–252. 明石書店. 2023.

D. 一般学術論文

- 森井裕一. クーデター計画の底流とドイツ社会の現実. 『外交』. 77. pp. 110–117. 2023.

F. その他の業績

- 森井裕一. 書評. 本の棚. 黛秋津編『講義 ウクライナの歴史』. 山川出版社. 2023. 『教養学部報』. 650. 2023.12.1.
- 森井裕一. エッセー. ドイツ現代史研究の卓越化と越境化——石田勇治先生を送る. 『Odysseus』. 27. pp. 113–115. 2023.
- 森井裕一. 解説記事. ドイツ「接近による変容」断念. 『朝日新聞』. 2023.1.26. 11 面.

H. 国内学会での活動

- 討論. 日本国際政治学会. 国際統合分科会. 欧州主要国と「リベラル国際秩序」——ブレグジット、ウクライナ戦争の衝撃 (1) . 2023.11.11. 福岡国際会議場.

森山工 (MORIYAMA Takumi)

F. その他の業績

- 対談=森山工×重田園江「モースとアーレントを再読する——森山工著『贈与論』の思想』／重田園江著『真理の語り手』刊行を機に」. 『週刊読書人』. 347. pp.1–2. 読書人. 2023.1.20.
- 人新世の脱構築 (開会の挨拶) . 『日仏文化』. 92. pp. 3–5. 公益財団法人日仏会館. 2023.3.22.
- 開会挨拶/Allocution d’ouverture. 『TINDOWS (環インド洋地域研究プロジェクト・東京大学拠点) 活動報告』第 1 号 (文学をとおしてルワンダ・ジェノサイドを考える ヴェロニク・タジョさん来日記念講演——『神 (イマーナ) の影 ルワンダへの旅——記憶・証言・物語』解題——記録集) . オンライン. 2023.4.

<https://www.gsi-iags-tindows.com/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%A0%B1%E5%91%8A>.

H. 国内学会での活動

- 講演会「文学をとおしてルワンダ・ジェノサイドを考える——ヴェロニク・タジョさん来日記

念講演」。環インド洋地域研究プロジェクト・東京大学拠点 (TINDOWS) 主催。東京大学グローバル地域研究機構持続的開発研究センター共催。18 号館ホールおよびオンライン配信。2023.3.2. 開会挨拶/Allocution d'ouverture. 日本語およびフランス語。

- 駒場東邦中学校講演会。駒場東邦中学校。2023.11.2. 講演「マダガスカルへの／からの軌跡」。
- 東京大学ヒューマニティーズセンター・リエゾントーク IX「つなぐ・つながる人文学——教育研究と連携の未来」。東京大学ヒューマニティーズセンター主催。21KOMCEE West レクチャーホールおよびオンライン配信。2023.11.9. 報告「人文学の位置とその可能性」。
- 横断型基幹科学技術研究団体連合第 14 回コンファレンス。横断型基幹科学技術研究団体連合主催。東京大学工学部3号館31講義室およびオンライン配信。2023.12.17. 特別講演(招待講演)「東京大学における領域融合の試みと UTokyo Compass」。

矢口祐人 (YAGUCHI Yujin)

B. 分担執筆

- 矢口祐人。ハワイの内側から見るハワイ史。中野聡, 安村直己 (編)。『世界歴史 19』. p. 290. pp. 141–154. 岩波書店。2023.
- 矢口祐人。歴史博物館における AI と歴史証言。板津木綿子, 久野愛 (編)。『AI から読み解く社会』. p. 315. pp. 183–195. 東京大学出版会。2023.

E. 翻訳

- マシュー・スエダ, 矢口祐人 (訳)。アナ・ベドゥスキ (著)。越境する身体——AI 時代国際移動の管理。板津木綿子, 久野愛 (編)。『AI から読み解く社会』. p. 315. pp. 153–163. 東京大学出版会。2023.

H. 国内学会での活動

- 「American Quarterly の軌跡——ビジョン、営み、編集拠点としてのハワイと環太平洋」。立教大学。東京。2023.6.25. 招待講演。American Quarterly の軌跡。コメンテーター。

I. その他の研究活動

- 東大ウィーク@Marunouchi。三菱不動産。東京。2023.8.9. 招待講演。そんなに良いところ？——憧れのハワイの現実と課題。招待講演。
- 荻上チキ・Session。TBS ラジオ。東京。2023.8.17. ハワイ州・マウイ島の山火事で多数の犠牲者——改めて知るハワイの社会と歴史。コメンテーター。
- Liberal Arts Education in a Changing World。学習院大学。東京。2023.10.7. 招待講演。Liberal Arts in a Changing World。英語。

山口輝臣 (YAMAGUCHI Teruomi)

B. 分担執筆

- 山口輝臣, 福家崇洋。刊行の辞／山口輝臣。はじめに／山口輝臣。教育勅語。山口輝臣, 福家崇

洋編. 『思想史講義【明治篇II】』. p. 336. pp. 9–10, 11–24, 41–57. ちくま新書. 2023.

- 田村隆, 山口輝臣. 「法医工文理」の大学史. 小林和幸編. 『東京 10 大学の 150 年史』. p. 288. pp. 35–42. ちくま選書. 2023.
- 山口輝臣. 宮中祭祀と「国家神道」——象徴天皇の現在とその道のり. 荻部直, 瀧井一博, 梅田百合香編. 『宗教・抗争・政治——主権国家の始原と現在』. p. 210. pp. 3–26. 千倉書房. 2023.

F. その他の業績

- 山口輝臣. 書評論文 島蘭進・末木文美士・大谷栄一・西村明編『近代日本宗教史』全 6 巻. 『宗教と社会』. **29**. pp. 123–126. 2023.
- 栗田英彦, 山口輝臣. 書評とリブライ 山口輝臣編著『渋沢栄一はなぜ「宗教」を支援したのか』. 『宗教と社会』. **29**. pp. 207–212. 2023.

I. その他の研究活動

- 「国際漢学」集中講義・日本視野下的日本與中國近現代史. 依頼講演「日本の近現代日本観」. 2023.3.14. 政治大学（台北）. 日本語.
- 「国際漢学」集中講義・日本視野下的日本與中國近現代史. 依頼講演「立憲政治をどのように始めるのか」. 2023.3.14. 政治大学（台北）. 日本語.
- 公開学術シンポジウム・仏教の視点から明治神宮以前・以後を考える. 明治神宮国際神道文化研究所・明治神宮史研究会. コメント. 2023.10.21. 明治神宮社務所講堂.
- 渋沢栄一と「フィランソロピー」3 巻出版記念学術シンポジウム. 渋沢栄一がめざした「地域」の持続的成長. 公益財団法人渋沢栄一記念財団. コメント. 2023.11.2. AP 東京八重洲.

和田毅 (WADA Takeshi)

B. 分担執筆

- Wada, T. Repertoires of Contention across Latin America. Rossi, F. M. (ed.). *The Oxford Handbook of Latin American Social Movements*. pp. 660–677. Oxford University Press. 2023.

C. レフェリー付き学術論文

- Wada, T., Kawasaki, Y. Contentious Semantic Space: Protest Event Analysis of Shifting Claims and Discourses in Mexico, 1955–2018. *Conference Proceedings from LASA2023*. Latin American Studies Association. 2023.

G. 国際学会での活動

- LASA2023. Latin American Studies Association. Vancouver, Canada. 2023.5.25. 一般発表. Contentious Semantic Space: Protest Event Analysis of Shifting Claims and Discourses in Mexico, 1955–2018. 英語. 司会.

H. 国内学会での活動

- 第 5 回ラテン・アメリカ政経学会オンライン・ラウンドテーブル (ORT) 査読付きジャーナル論文投稿セミナー. ラテン・アメリカ政経学会. オンライン開催. 2023.2.18. 招待講演. 共著で

査読付きジャーナル（ラテン・アメリカ論集）に投稿し掲載されるまで。

I. その他の研究活動

- 第 31 回地域文化研究専攻公開シンポジウム「インターセクショナリティ——新たな地域文化研究の可能性」. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. オンライン開催. 2023.6.24. 招待講演. 社会運動論からみたインターセクショナリティの可能性——抗議行動のイベント・データを用いた交差構造の同定.

渡邊祥子 (WATANABE Shoko)

B. 分担執筆

- Watanabe, Shoko. Muhammad al-Fasi (1908–1991). La réorganisation du savoir au Maroc. *Savants musulmans au Maghreb*. Edited by Sabrina Mervin, and Augustin Jomier. pp. 105–120. Marseille: Diacritiques Editions. 2023.

D. 一般学術論文

- 와타나베 쇼코 [Watanabe Shoko]. 말릭 벤 나비 (Mālik ibn Nabī)를 통해 보는 아시아 아프리카 연대: 세계대전 전간기와 냉전기의 연속과 단절 [Malek Bennabi's Afro-Asianism from the Interwar Period to the Cold War: Continuity and New Departure] (Translated from Japanese to Korean) . 『동방 학지 [東方學志]』. **204**. pp. 31–47. 2023.9.

F. その他の業績

- Watanabe, Shoko. Messali Hadj. *Encyclopaedia of Islam*. Third Edition. Brill. 2023.4.
- Watanabe, Shoko. Abbās, Farḥāt. *Encyclopaedia of Islam*. Third Edition. Brill. 2023.4.

I. その他の研究活動

- Watanabe, Shoko. Muhammad al-Fasi (1908–91) and Transformations of Knowledge in Morocco under the French Protectorate. In Workshop “Sharing the Knowledge: Lectures by Tobunken Scholars, The University of Tokyo.” University of Naples “L’Orientale.” Naples (Italy). November 13 2023.
- 渡邊祥子. 多角的に史実を見る——北アフリカ植民地史研究の現場から. 東京大学高校生と大学生のための金曜特別講座. 2023.10.27.
- 渡邊祥子. 班研究の趣旨説明およびアルジェリア渡航報告——後期植民地期を中心としたイスラーム改革主義の社会的基盤の研究. 東京大学東洋文化研究所班研究「アルジェリアの社会経済」2023 年度第一回研究会. 東京大学東洋文化研究所. 2023.7.16.
- Watanabe, Shoko. L’utilisation des statistiques dans les études historiques: Une étude de cas sur la relation entre les deux systèmes d’enseignement (en arabe et en français) en l’Algérie aux années 1940 et 1950. Presented at the *Conférence, Faculté des Sciences Economiques, des Sciences Commerciales et des Sciences de Gestion, Université de Mascara (Algérie)*, May 29 2023. In French.
- 渡邊祥子. アルジェリア独立戦争と都市および農村のイスラーム実践. 科研費「西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究」研究会. 東京大学東洋文化研究所. 2023.3.10.

- 渡邊祥子. マーリク・ベン・ナビー（1905–73年）に見るアジア・アフリカ連帯——両大戦間期と冷戦期の連続と断絶. 延世大学（ソウル、韓国）. 国学研究院主催「アジアにおける『脱境界』——移住、交渉、共生」. 2023.1.17.